

外国語の指導における I C T の活用について

はじめに

外国語教育とICTの親和性は非常に高いものです。古くは、昭和33年に告示された学習指導要領に「レコードや蓄音機の活用」と記されています。ネイティブ・スピーカーが現在ほど各学校に配置されていない状況において、音声を聞く環境整備は外国語教育の推進に当たり、欠くことのできないものでした。

時代は変わり、レコードや蓄音機がオープンリールのカセット、カセットレコーダ、CDと進化し、多くの学校にLL教室が配備されてきました。こうした音声機器は、ICT技術がさらに進歩した現在、タブレット等に形を変え、その可能性は飛躍的に広がっています。

例えば、「英語の授業を英語で行う」ために映像を使う授業におけるICT活用。例えば、パフォーマンス評価へのICTの活用。例えば、教室を飛び越え、世界とつながるためのICT活用など。全国では、その親和性、特性を生かしたいろいろな実践が行われています。逆に、「翻訳機が進化して英語の学習は不要になるのでは？」という疑問の声も聞かれます。しかし、AIにはできない、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を踏まえ、言語の背景にある文化や相手への配慮をしながら、自分が本当に伝えたいことを伝え合い、理解し合う能力の育成」が新学習指導要領の目指すところです。

ICTは、地域性や家庭環境による「日常的に英語に接する機会」の格差を解消するツールにもなり得るでしょう。また、平素から、教師も児童生徒もICTを活用し、遠隔地とつながる外国語の授業に慣れ親しむことが、コロナや自然災害など臨時休業を迫られたときの学びの保障にもつながります。

こうした点を念頭に、今回、実践例をまとめました。ICTを上手に活用して「本物のコミュニケーション」を大切にする外国語授業が全国で展開されることの一助になることを願っています。

本資料の構成

1. 外国語教育とICT p3

- ・学習指導要領の目標
- ・外国語教育におけるICT活用の利点
- ・公立小・中・高等学校でのICT活用状況

ICT活用が、学習指導要領外国語にどのように位置づけられているか、また、全国でどのくらい活用されているかを解説します。

2. 外国語の指導におけるICTの活用事例 p12

- ・【言語活動・練習】
- ・【交流・遠隔授業】
- ・【コンテンツ・授業運営】

実際に学校で行われているICTを活用した取組事例やアイデアを、【言語活動・練習】、【交流・遠隔授業】、【コンテンツ・授業運営】の3つの類型に分けてご紹介します。

1. 外国語教育とICT

- ・新学習指導要領 外国語科の目標 p4
- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用に関する新学習指導要領の記載 p5
- ・外国語教育におけるICT活用の利点 p6
- ・ICT機器の活用状況(小・中・高等学校) p7
- ・ICT機器活用の国際比較(OECD PISA2018調査) p8
- ・ICT機器の活用と授業改善 p9
- ・外国語教育におけるICT活用(1人1台端末)のイメージ p10
- ・臨時休業中の学習にも対応できるICTの活用(一例のイメージ) p11

新学習指導要領 外国語科の目標

新学習指導要領では、全ての教科等の目標について、①**育成することを目指す資質・能力(何ができるようになるか)**と、②**教科等の特質に応じた学習過程(どのように学ぶか)**を明示。

中学校学習指導要領(平成29年3月31日告示)

〔小学校外国語活動・外国語科、高等学校外国語科・英語科においても同様の考え方にに基づき目標を設定〕

第2章第9節 外国語 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする**コミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

生きて働く
知識・技能の習得

(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる**実際のコミュニケーション**において活用できる技能を身に付けるようにする。

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・
表現力等の育成

(2) コミュニケーションを行う**目的や場面，状況などに応じて**，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを**理解したり**，これらを活用して**表現したり伝え合ったり**することができる力を養う。

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・
人間性の涵養

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，**聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮**しながら，**主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする**態度を養う。

コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用に関する 新学習指導要領の記載

○小学校学習指導要領(平成29年告示) 外国語活動・外国語

児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、**児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る**ようにすること。

○中学校学習指導要領(平成29年告示) 外国語

生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、**生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実**を図るようにすること。

○高等学校学習指導要領(平成30年告示) 外国語

生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、**生徒の興味・関心をより高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせる**ために、**キーボードを使って英文を入力**するなどの活動を効果的に取り入れることにより、**指導の効率化や言語活動の更なる充実**を図るようにすること。

①【言語活動・練習】

→児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化

- ・言語活動(特に「話す」、「書く」機会)の充実とパフォーマンステスト等評価への活用
- ・言語活動で活用するための、音声・文字・語彙・文構造・文法などの定着(繰り返し練習)
- ・一人一人の能力や特性に応じた学びの機会の確保

②【交流・遠隔授業】

→遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時への対応

- ・遠隔地や海外等の児童生徒、英語話者との「本物のコミュニケーション」
- ・新型コロナウイルス対応や大規模災害等に伴う休業期間における学びの保障
- ・小規模校における対話的な学びが可能。

③【コンテンツ・授業運営】→興味・関心、学習の質を高める

- ・コミュニケーションのモデル提示、「聞く」「読む」ための素材の提供
- ・板書や説明時間の短縮等により、言語活動中心の授業展開が可能
- ・写真やイラスト等により、日本語を介さずに英語のまま理解することを支援

ICT機器の活用状況(小・中・高等学校)

- ・新学習指導要領では、**ICT等の活用により、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る**ことを明示している。
- ・ICT機器を活用していると回答した割合は、全ての学校種で9割を超えており、多くの項目において上昇傾向にある。
- ・今後、児童生徒自身がICT機器を操作する活動や、インターネットを活用した遠隔地の教師・児童生徒等とつないでコミュニケーションを取るといった活動に、さらなるICT機器の活用が望まれる。

	小学校	中学校	高等学校
ICT機器の活用を行った学校の割合	99.1% (99.0%)	96.6% (95.8%)	91.7% (88.6%)
教師がデジタル教材等を活用した授業	99.0% (98.3%)	92.4% (89.2%)	88.9% (80.9%)
児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動	41.4% (30.8%)	44.0% (30.4%)	47.4% (34.7%)
児童生徒が発話や発音などを録音・録画する活動	21.8% (12.4%)	36.6% (26.9%)	34.2% (22.8%)
児童生徒がキーボード入力等で書く活動	20.3% (13.1%)	23.7% (15.3%)	29.8% (20.6%)
児童生徒が電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動	1.5% (0.9%)	3.7% (2.3%)	9.0% (5.2%)
児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動	3.0% (1.9%)	3.2% (2.4%)	5.9% (4.2%)
遠隔地の教師やALT等とチーム・ティーチングを行う授業	2.8% (3.4%)	4.0% (5.6%)	6.3% (6.5%)
児童生徒が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う活動	2.0% (1.4%)	2.8% (2.2%)	5.8% (3.3%)

具体的な活用の内容

【交流・遠隔授業】 【言語活動・練習】 【コンテンツ・授業運営】

※ () 内は、昨年度の値。

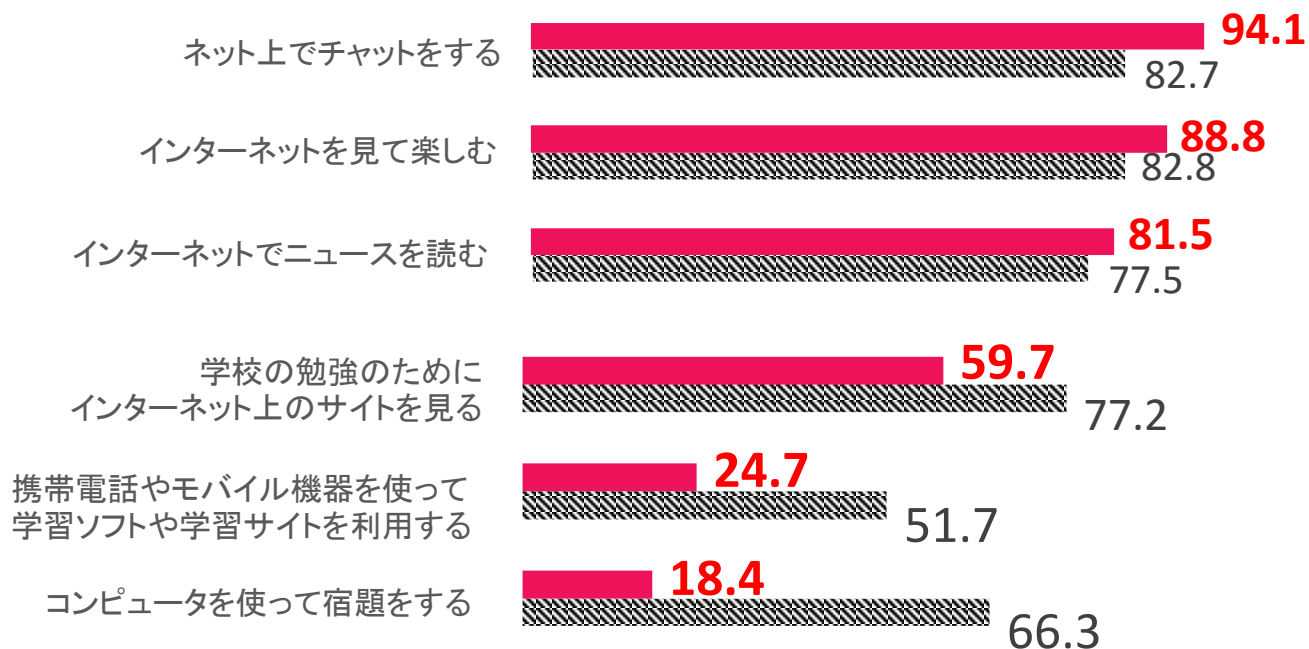
※全ての割合について、「ICT機器を活用した学校数」を分子、全学校数を分母として計算。

※「ICT機器を活用した学校数」は、平成30年度は「積極的に活用した(する)」、「時々活用した(する)」、「ほとんど活用しない」「全く活用しない」の4択のうち、「積極的に活用した(する)」及び「時々活用した(する)」と回答した学校の数、令和元年度は、「積極的に活用した(する)」、「時々活用した(する)」、「全く活用しない」の3択のうち、「積極的に活用した(する)」及び「時々活用した(する)」と回答した学校の数。

■生徒の学校におけるデジタル機器の使用状況

学校の「外国語」の授業でICT機器を「使っていない」と回答した生徒の割合 **67.0%**: 参加國中ワースト1位

■生徒の家庭におけるデジタル機器の使用状況 (月に1~2回以上活用していると回答した生徒の割合%)

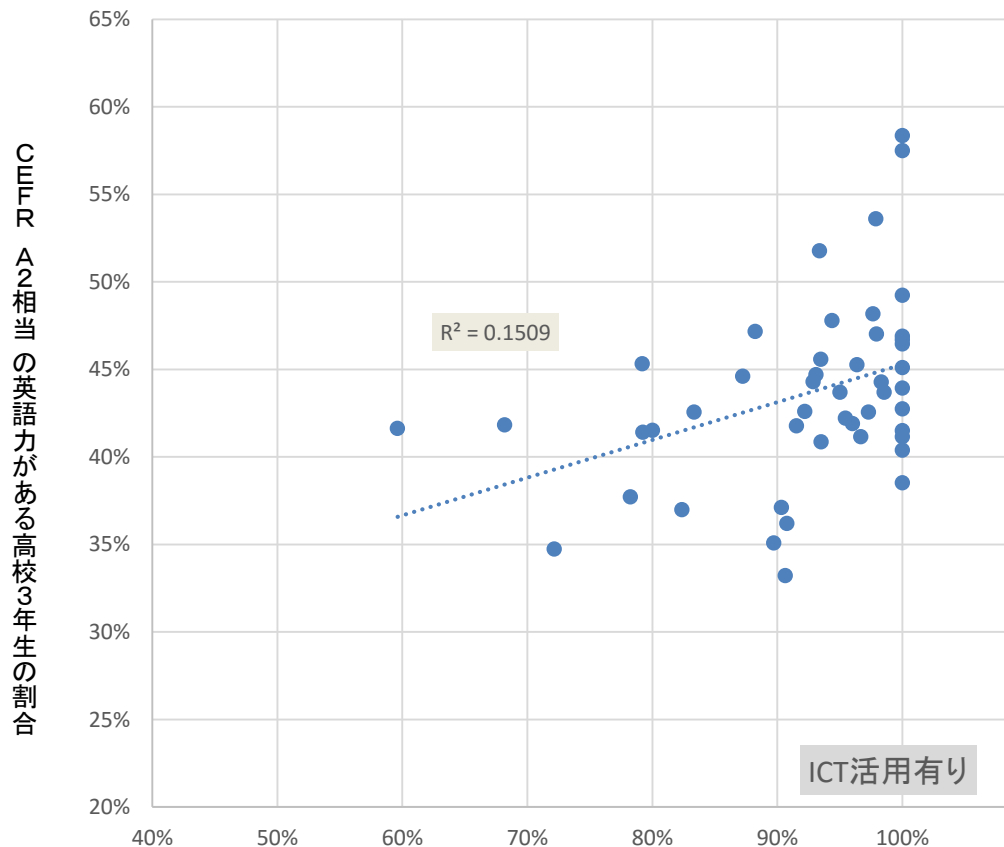


日常生活では多くの生徒がデジタル機器を使用しているが、(OECD平均以上)

学習には、十分に活用されていない (最下位レベル)

- ・高校生の英語力CEFR A2以上の割合が高い地域では、ICTが積極的に活用されている。
- ・ICTを活用している学校の多い地域では、指導や評価の改善に関する取組が進んでいる。

■ 高校生の英語力とICT活用状況



ICTを積極的に活用せずに、生徒の英語力の目標(50%)を達成している都道府県はない

ICTを活用している学校(学科)の割合

(出典)「令和元年度 英語教育実施状況調査」より作成

外国語教育におけるICT機器の活用(1人1台端末)イメージ

＜教室やグループに一台ではなく、1人1台の端末が整備されることにより、以下のようなメリットが期待できる＞

4技能のバランスのとれた育成

聞く

- ・音声の速度を変えたり、繰り返し再生するなどの個別の支援を児童生徒が活用することができる。
- ・児童生徒の興味・関心や、学んだ内容に関連のある実際の音声を教材として使用することができる。

読む

- ・調べ学習等の場面で、インターネット上の多様な情報を外国語で検索したり収集したりすることができる。
- ・児童生徒の興味・関心や、学んだ内容に関連のある資料を教材として使用することができる。

話す

- ・インターネットを利用して、児童生徒一人一人が遠隔地や海外の人たちと個別に会話することができる。
- ・外国語を話す場面を録音・録画し、活動を振り返ったり繰り返したりすることができるほか、教員が評価に活用することができる。

書く

- ・ネットワーク環境を利用して児童生徒が各自作成した成果物を瞬時に共有・蓄積できる。
- ・インターネット上の文章添削ツール等を利用することで、生徒が自分の書いたものを修正することができる。

- ・遠隔地や海外の学校等と交流することにより、多様な英語や異なる文化に触れることができる。
- ・電子メールやSNSを用いて、読んだり書いたりしながら、実践的なやり取りをすることができる。
- ・ICTを活用してプレゼンテーションやディスカッションの準備をしたり、動画などを作成・共有することができる。

＜学校種に応じて期待できること(例)＞

小学校

- ・発音や表現のモデルを示すことで児童が体感的に習得できる。
- ・姉妹校など、海外の同年代の児童と交流することで、お互いの文化について理解を深めることができる。

中学校

- ・授業の言語活動をより効果的に行うために新出言語材料の意味や用法などを授業以外の場面でも個別に繰り返し学んだりできる。
- ・姉妹校とビデオレターをやり取りするなど国際交流ができる。

高等学校

- ・生徒がキーボード入力して、英語で書いた内容をオンラインで投稿して読み合い、意見や感想を伝え合ったりできる。
- ・実際のニュースやレポートなど、生の外国語に触れられる。

臨時休業中の学習にも対応できるICTの活用(一例のイメージ)

- 平常時から、積極的にICTを組み合わせ、児童生徒の資質・能力育成のために活用を進めることで、感染症対策下や自然災害時でも児童生徒の学習を確保することにつながると考えられる。
- 対面(同時双方向)とオンデマンド(動画視聴等)、既存の教材等を使った学習など、それぞれにメリット・デメリットがあり、授業の目的や発達の段階、家庭環境等を踏まえて、組み合わせ、使い分ける。

動画配信

- 平常時から、音声、映像を活用
- 都合のいい時間に視聴可能
- 繰り返し、自分のペースで
- ✓ やり取りができない
- ✓ 児童生徒の様子は見えない



WEB会議システム

- 平常時は遠隔地・海外との交流に活用
- 臨時休業時は教師やALTと児童生徒、児童生徒同士のやり取りが可能
- 児童生徒の様子がわかる
- ✓ 児童生徒が同時に接続可能な環境が必要
- ✓ 長時間の接続は負担が大きい



TV、ラジオ放送

動画コンテンツ視聴
(オンデマンド)

オンライン指導、
グループワーク
(同時双方向)

フィードバック

学習課題

授業支援
アプリ

Webアンケート
フォーム



- 英作文の添削 ・作品の共有
- 質問への回答 など

- 課題の回答
- 英作文、録音や録画の提出
- わからないことを質問

教科書、
ワークシート等

デジタル教材

録音、撮影



臨時休業等に対応した取組事例
(掲載ページ)

- 「一人一人の筆記や録音をオンラインで共有し、添削する授業(中学校)」(p24)
- 「SNSを活用した、生徒同士のオンラインのやり取りを含む書く活動(中学校)」(p27)
- 「Web会議システムを使用したオンライン授業と登校を組み合わせた事例(高校)」(p42)

など、p13～の事例一覧において、事例名に★印を付して紹介。

2. 外国語の指導における ICTの活用事例

【言語活動・練習】 【交流・遠隔授業】

【コンテンツ・授業運営】

外国語の指導における ICT の活用事例 事例一覧 ①

【言語活動・練習】

グループ	学校種	取組事例・アイデア名	スライド番号
発話や発音などを聞く活動	小学校	タブレット端末を使用した絵・文字・音声による単語学習	16
	小学校	タブレット端末を使用した個別の発音練習	16
	小学校	タブレット端末を使用した自分自身の発表の振り返り	16
発表ややり取りをする活動	小学校	タブレット端末を使用したやり取りの実践「Let's go to Italy.」	17
	小学校	タブレット端末を使用したやり取りの実践「アルファベットクイズ」	17
	小学校	We Can! 1に対応した自作教材を活用した発表をする活動	18
	小学校	友達の発表の録画の視聴と、児童同士のフィードバック	18
	小学校	発表をタブレット端末で共有し、振り返り・学習評価に活用する取組	19
	中学校	インフォメーションギャップを作り出す即興プレゼンテーションの授業	20
	高等学校	発表・プレゼンテーションでのデジタル機器の活用	21
書いたり読んだりする活動	小学校	児童が加工した写真を一覧にして掲示する授業「アルファベット」	22
	小学校	児童がつなげたキーワードを一覧にして掲示する授業「自己紹介」	23
	中学校	一人一人の筆記や録音をオンラインで共有し、添削する授業 ★	24
	高等学校	記事を要約したり、自分の考えをまとめるリーディング・ログの取組 ★	25
書いたりやり取りをしたりする活動	中学校	タブレット端末を活用し、生徒に気付きをもたらす「メモ」の書き方を学び合う学習	26
	中学校 高等学校	生徒の回答のデータベース化による、学校を超えた学び合い	26
	中学校	SNSを活用した、生徒同士のオンラインのやり取りを含む書く活動 ★	27
	高等学校	キーボードで文字入力を行い、電子メールやSNSでメッセージを海外に送信する活動	28
書いたり発表をしたりする活動	小学校	タブレット端末を使用した資料作成と発表「行きたい国のコマーシャルを作ろう」	29
	高等学校	生徒自身による自己紹介動画のオンライン投稿を含む授業「Be a YouTuber」 ★	30
	中学校	パフォーマンステストの自己評価・ピア評価・ポートフォリオ評価への活用	31
	高等学校	生徒のスマートフォンを活用したパフォーマンステストの実施	31
見たり聞いたりする活動	中学校	動画教材やWebアンケートフォーム等を活用した家庭学習 ★	32
	高等学校	動画共有サイトに自作の動画を掲載し、家庭での予習・復習に活用 ★	34
	中学校	タブレット端末を利用したスピーチ、音読、聞き取り練習	35
	高等学校	地元テレビ局と連携した指導動画の制作 ★	35

外国語の指導におけるICTの活用事例 事例一覧 ②

【交流・遠隔授業】

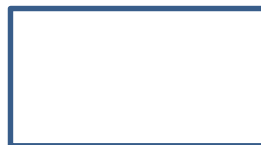
グループ	学校種	取組事例・アイデア名	スライド番号
海外・遠隔地の児童生徒と交流を行う事例	高等学校	海外の学校とつながり、即興でやり取りをする活動	36
	高等学校	海外ゲスト・姉妹校や国内遠隔地にある学校との双方向型授業	37
	高等学校	海外の高校生とプロジェクトチームを結成する双方向型探求学習	38
	小学校 中学校	小規模校同士をWeb会議システムでつなげる「小小連携」・「小中連携」の遠隔協働学習	39
	小学校	Web会議システムやライブカメラで、自分の地域などを紹介し合う事例	40
	中学校	TV会議システムを活用した、学校や先生紹介などの学校間交流	40
遠隔地の教師やALTが指導を行う事例	高等学校	他校の教諭から、英語(ディベート)の補習授業を受ける事例	41
	高等学校	Web会議システムを使用したオンライン授業と登校を組み合わせた事例 ★	42
	高等学校	オンラインのグループワークを含む双方向型授業	43
	中学校	電子模造紙と遠隔授業を組み合わせたALTによる遠隔指導	44
	中学校	中山間地校と市街地校のALTをWeb会議システムでつなぐ遠隔授業	45
	中学校	ALTを活用したWeb会議システムによる遠隔指導	46
	高等学校	多様なバックグラウンドをもつ複数のALTを活用した遠隔授業	47
	高等学校	Web会議システムを使用したALT・生徒同士のオンライン英会話 ★	48
	高等学校	Web会議システムを使用したALT・JTEとのオンライン英会話	48
	高等学校	授業支援アプリを使用した家庭学習の支援 ★	49
高等学校	Webアンケートフォームを活用した指導	49	
遠隔地の外部人材が授業を行う事例	中学校	高度な専門性をもつ人材が行う遠隔授業	50
遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う事例	中学校	海外の英会話講師と生徒一人一人をつなぐ遠隔学習	52
	高等学校	海外の英会話講師とのマンツーマンオンライン英会話	53

【コンテンツ・授業運営】

グループ	学校種	取組事例・アイデア名	スライド 番号
デジタル教材の活用	小学校	文部科学省作成 教師用デジタル教材	54
	中学校	デジタル教科書の活用による指導の充実と効率化	58
	中学校	教科書の内容を補足する情報の提示	58
	中学校	言語活動の導入を円滑にするイメージ画像の提示	59
	中学校	言語活動(ディベート)の取り組み方の提示	59
評価への活用と指導方法の向上	中学校 高等学校	ビッグデータを活用した指導方法の開発	60
教師への支援	小学校	「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」を踏まえた研修動画	61
	小学校	文部科学省作成教材 教師用指導書	62
	全校種	オンラインを活用した情報交換・研修の開催	63
	全校種	YouTube文部科学省公式チャンネル MEXT Channel 外国語教育はこう変わる！	64
	全校種	文部科学省ホームページ 教育の情報化の推進 調査研究事業のICT活用授業事例	65

< 凡例 >

★・・・上の表内で紹介されている事例のうち、
臨時休業期間中に行われたと、明示的に説明
されているものについて、★印を付しています。
ただし、それ以外の事例についても、休業期間に
活用されたもの・活用可能なものが含まれます。



・・・次ページからの事例紹介において、
2ページにわたるものについては、
青枠で囲んでいます。

小学校

タブレット端末を使用した絵・文字・音声による単語学習



単元: 日本文化紹介
内容: 児童が日本の食べ物の特徴や味に関する表現を個人でタブレット端末を使って、数分練習したり、語から連想する食べ物をペアで言い合ったりする。
絵と文字を見て、児童がどんどん単語を言っていく。わからなければ、音声を聞くことも可能。

(京都教育大学附属桃山小学校 6年生)

小学校

タブレット端末を使用した 個別の発音練習



タブレット端末で音声を聞き、個別学習で発音練習を行っている。

(京都教育大学附属
桃山小学校)

小学校

タブレット端末を使用した 自分自身の発表の振り返り



自分の発表を録画・視聴し、気付いた点などについて振り返りシートに記入している。

(京都教育大学附属
桃山小学校)

小学校

タブレット端末を使用したやり取りの実践「Let's go to Italy.」



おすすめの国について図書館やネットで調べたことを基に資料を作成。各ブースごとに、作成した資料をで相手に見せながら、おすすめの国を紹介する。いろいろなブースを回った児童は、最後に自分の行きたい国を発表する。それぞれ、どのように説明すると、聞く側が自分のおすすめの国をよく理解し、行きたいと思ってくれるかを工夫している。

(山梨県 昭和町立押原小学校 6年生)

小学校

タブレット端末を使用したやり取りの実践「アルファベットクイズ」



1人1台のタブレット端末を使用し、画面を見せながら1対1のペアワークを行う。テキストから選んだアルファベットの文字のクイズを行っている。

(京都教育大学附属桃山小学校 4年生)

小学校

We Can! 1に対応した自作教材を活用した発表をする活動



教材: We Can! 1のイラストを読み込んで自作

内容: 児童が一日の生活を発表。本授業では、朝食が話題(What do you have for breakfast?)。児童が朝食の食べ物イラストを、対応する動物・頻度の下に移動させ、表を作成し、それを基に発表する。

(熊本県 五木村立五木東小学校 5年生)

小学校

友達の発表の録画の視聴と、児童同士のフィードバック



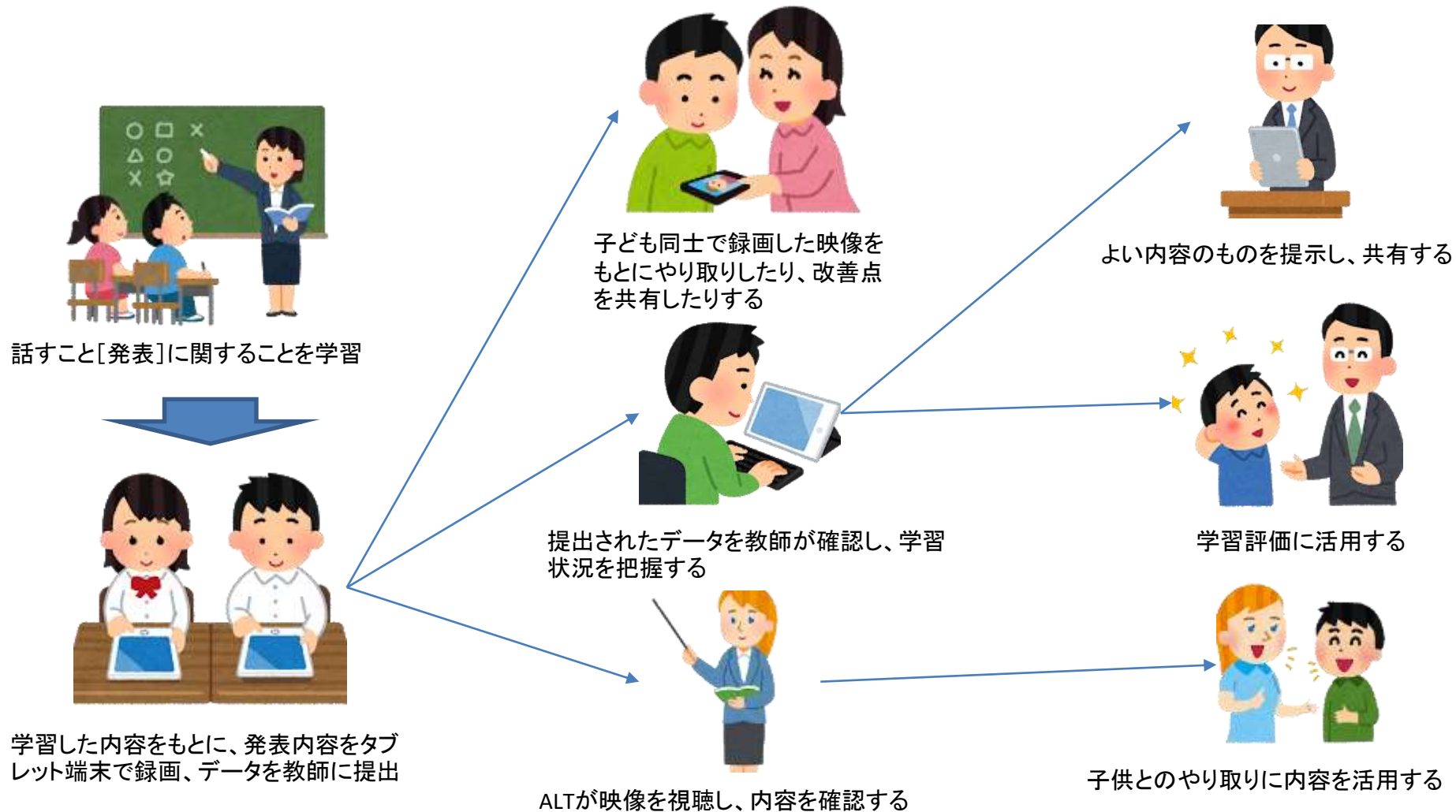
録画された他の児童の発表を視聴し、タブレット端末に発表についてのコメントを記入する。交流画面では全てのコメントを一覧にして閲覧し、交流することができる。

(京都教育大学附属
桃山小学校)

小学校

発表をタブレット端末で共有し、振り返り・学習評価に活用する取組

発表内容を録画し、学習評価や生徒へのフィードバックを含めた様々な用途で活用することができる。



中学校

インフォメーションギャップを作り出す即興プレゼンテーションの授業

隣同士で異なるタスクや質問を、教師のICT機器→生徒のタブレット端末に一斉配信し、1対1のプレゼンテーションを行わせる事例。

- ① 社会科の学習を踏まえ、自分が興味をもった国について調べ、当該国の魅力と思っった画像(建造物や自然、食べ物などの写真)をタブレット端末に保存。
- ② プレゼンテーションに取り組む直前に、聞き手の生徒が、自分の興味あること(自然に興味がある、スポーツに興味があるなど)を話し手(写真の女子生徒)に伝える。
- ③ 話し手は、聞き手の興味に合うと思う画像を、タブレット端末に保存している画像から何枚か選び、それらの画像を映し出ししながら、即興でプレゼンした。加えて、プレゼン後に聞き手からの質問に答える活動を設定。

当該活動においても、タブレット端末に保存されている画像を適宜使いながら即興で質疑応答させた。

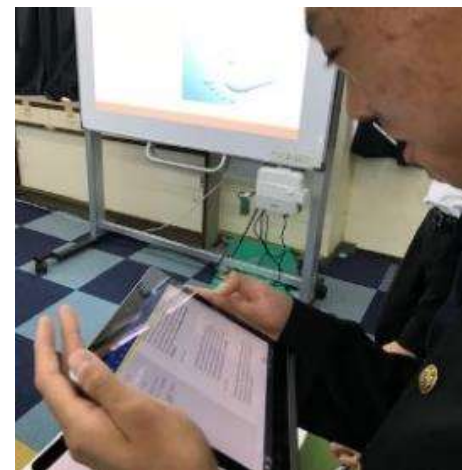


(岐阜大学教育学部附属中学校)

高等学校

発表・プレゼンテーションでのデジタル機器の活用

個人、ペア、グループで、発表を行う際に、タブレット端末や電子黒板、プレゼンテーションソフトを活用する事例。発表内容の作成時の調べ学習や、実際の発表の際の視覚補助等として活用する。



小学校

児童が加工した写真を一覧にして掲示する授業「アルファベット」

アルファベットの大文字に見えるものを学校や家庭で探し、タブレット端末で写真を撮って、どこがアルファベットの大文字に見えるかがわかるように、それぞれの児童が加工した。これを教室で一覧にして見られるように掲示した。

また、児童間で写真を共有できるようにし、タブレット端末を見ながら、紙のワークシートに見つけた文字と、それを見つけた友達の名を書く学習を行っている。

(京都教育大学附属桃山小学校 3年生)



小学校

児童がつなげたキーワードを一覧にして掲示する授業「自己紹介」



授業支援アプリ(ロイノート・スクール)の「ウェビング」機能を使用し、自己紹介をするためのキーワードを書いたウェビングシート(マッピングモデル)を児童がタブレット端末で作成した。このウェビングシートを集め、一覧で表示するとともに、そのうちのいくつかを取り上げて、教室で電子黒板に写して教師が紹介した。

(京都教育大学附属桃山小学校)

中学校

一人一人の筆記や録音をオンラインで共有し、添削する授業

- ① Web会議システム(Google Meet)を使って「学習課題」や「活動のやり方」等を生徒全員に提示
- ② 生徒は、当該学習課題に対する自分の考えなどを授業支援アプリ(ロイロノート)に書き込む。音声を録音させることもある。
- ③ 一人一人の筆記や音声を全員と共有
- ④ 教師は、当該筆記や音声を踏まえ指導。一人一人の筆記に対する添削もロイロノート上で可能。

(主な利点)

- 生徒の考えなどを、即時的に全員と共有することが可能(通常は、時間の関係上、2~3人の生徒が黒板に書いたり発表したりすることに留まる場合がある)。
- 教師は、生徒の筆記や音声等を保存できるため、変容を見届けることが可能。
- パフォーマンステストで授業支援アプリを活用することで、筆記や音声をパフォーマンステスト実施後にじっくり評価することが可能。

【③一人一人の筆記を全員と共有】



【④一人一人の筆記に対する添削】



高等学校

記事を要約したり、自分の考えをまとめる リーディング・ログの取組

臨時休校期間中も英語で情報を得たり、英語で表現することを継続する機会を作ることで、英語の力を維持、向上させることを目的として実施。

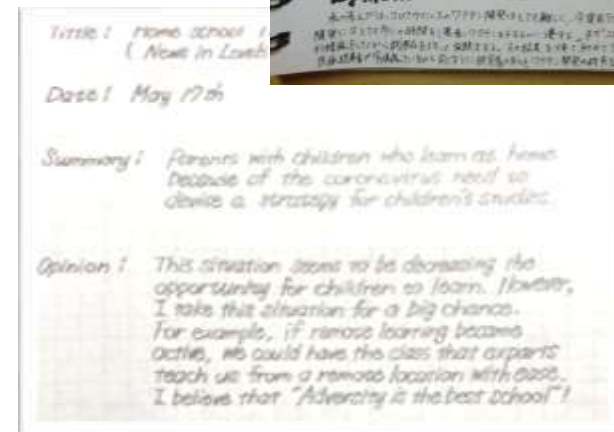
(指導の流れ)

- ・週に1つ、インターネットのニュース記事、NHKラジオ講座等のテキスト、英字新聞の記事やお話等を英語で読み、ノートにタイトル、読んだ日、内容の要約、自分の意見を書く。取り組んだページの写真を撮って、週に1枚、オンラインアプリケーションで提出することとした。
- ・休校期間中は週に1度、今後の提出日程の確認や教科担任、ALTがログを読んだ感想、今後の取組へのアドバイス等を配信した。週に2枚以上自主的に提出した生徒には、個別にコメントを送り、取組を励ました。
- ・休校中に6回取り組んだもののうち、休校明けの授業でクラスの生徒と共有したいログを1枚、オンラインで提出させた。授業では、生徒同士でログを読み合い、付箋にコメントを書いて交換した。

(成果)

- ・自己添削の習慣がついたり、週に2枚以上提出する生徒が出てきた。
- ・休校中に、最高で40枚取り組んだ生徒がいた。休校が明けから、様々な内容の英文を毎日読んだことで、自信がつき、初見で似た内容の英文を読んだ時に成果を実感したとの声があった。

(北海道札幌国際情報高等学校 国際文化科 2年生)



中学校

タブレット端末を活用し、生徒に気付きをもたらす「メモ」の書き方を学び合う学習

場面：メモを基に「話すこと[やり取り]」に取り組ませる
際に行う指導(メモの書き方の指導)

データ：生徒が作成したメモ

(本実践の流れ)

- ① メモを書かせ、それを基に「話すこと[やり取り]」に1度取り組ませる
- ② 当該言語活動後、ある生徒が作成したメモをタブレット端末で撮影し電子黒板に映し出す
- ③ 当該生徒に、全体の前で「話すこと[やり取り]」を再現させる
- ④ 他の生徒には、電子黒板に映されたメモを見ながら当該生徒の発話を聞かせる
- ⑤ どのようなメモが話す際に効果的であるかを指導(気付かせる)
- ⑥ 学んだことを踏まえ全員にメモを改善させる
- ⑦ 改善したメモを基に再度「話すこと[やり取り]」に取り組ませる



(神奈川県 相模原市立相模台中学校)

中学校

生徒の回答のデータベース化による、学校を超えた学び合い

・あるタスクに対する筆記等をデータベース化。同じタスクに取り組んでいる他県の中学生の筆記内容から、表現内容を学び合う。同じ教科書を使用している学校同士ならやりやすいと考えられる。教室や学校の枠を超え、国内の広範囲での全国的な表現内容の学び合いを行うことができる。

中学校

SNSを活用した、生徒同士のオンラインのやり取りを含む書く活動

オンラインコラボレーションツール(Microsoft Teams)を活用し、①課題を提示(音読見本の提示も可)、②課題に対する筆記や発話を提出、③課題に応じて、生徒同士でやり取りをさせ合う、④一人一人の筆記や発話に対してフィードバック、⑤質問がある生徒との個別のやり取り。

【③生徒同士のやり取り】

・本実践の主な利点は以下のとおり。

- 教師と生徒、生徒同士の即時的な関わりが可能。
- 音声の提出とそれに対するフィードバックが可能(通常の授業では、音声面からのフィードバックを生徒全員に行うことは難しい場合あり)。
- 生徒同士で行うやり取りは、日常生活で使用しているSNS上でのやり取りと同様の形式であるため、実生活に合わせた形での実践になり得る。投稿によるやり取りを楽しみと感じた生徒は多数。

※生徒が自発的に取り組んだこと(日記を書く、映画の感想を書くなど)についてやり取りすることもある。



高等学校

キーボードで文字入力を行い、電子メールやSNSでメッセージを海外に送信する活動

- ① 生徒がキーボード入力(タイピング)して作成した英文のエッセイを教師に電子メールで提出
- ② 教師が、提出された英文をプロジェクターに映して共有しながら校正や修正
- ③ 作成した英文を、オンライン文化言語交流プログラム等(※)で、電子メールやSNSを通じて海外に送る。

- ・エッセイの添削を行う無料ソフト等を活用する。
- ・ポートフォリオ評価に活用する。
- ・自己評価や相互評価、教師の評価の効率化が見込まれる。

- (利点)
- ・生徒が英語で書いた内容をオンラインで投稿して読み合い、意見や感想を伝え合う機会等の充実につながる(海外・校内)
 - ・個人作業と共同作業の融合となる。
 - ・課題研究や発表・ライティングのための調べ学習につながる。



※**Global Classmates** (グローバル・クラスメート)
Kizuna Across Cultures (KAC) が運営する日本語を学ぶアメリカの高校生と英語を学ぶ日本の高校生を対象とした、オンライン文化言語交流プログラム。毎回両学校であらかじめ決めたトピックについて、相手校の生徒と、SNS上で書いてやり取りを行いながら、情報や意見交換を行う。

(宮崎県立日南振徳高等学校)

小学校

タブレット端末を使用した資料作成と発表 「行きたい国のコマーシャルを作ろう」

インターネットのイメージ検索と組み合わせることで、個々の児童の興味・関心に合ったプレゼンテーションを作ることができる。

1 単元の学習で英文を書きためる

(例)

Italy is a nice country.
You can see the Colosseum.
You can eat pizza.
It's delicious.

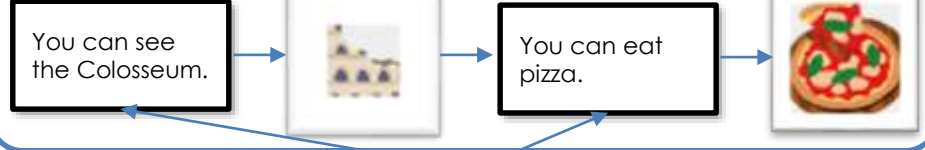


2 英文にあう写真をタブレット端末で Web検索する



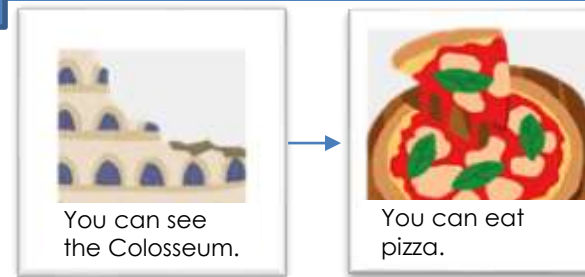
3 発表用のプレゼンテーションを作る

例1



書きためた英文を1文ずつ写真で取り込むかタイピングして入力する

例2



Web検索した写真の上に英文を
タイピングして入力する

4 グループで発表し、その様子を撮影し共有する



高等学校

生徒自身による自己紹介動画のオンライン投稿を含む授業 「Be a YouTuber」

(目的)

- 英語で話したり、書いたりして表現する機会を作る。
- 年度当初にほとんど授業ができないまま、休校になったため生徒理解を深める機会とする。

(実施内容)

1. 見た人の印象に残るように、自分にまつわるものを提示して、英語による自己紹介を行い、その原稿、動画をオンラインで提出する。
2. Web会議システムを用いたオンライン指導(一方向型)
 授業① 音声のみのself-introductionを聞き、表情や実物の提示などの重要性を確認。2回目の授業までに、話す内容を下書きすることを指示。
 授業② 生徒が英文を書く際に間違いやすい点を提示。自分で書いた英文を見ながら、自己添削するように指示。
JTE(※)、ALTが悪い発表、よい発表を動画で実演。よい発表にするために気をつけてほしいことを提示。

※JTE・・・Japanese Teacher of English、日本人の英語講師

(北海道札幌国際情報高等学校
普通科、理数工学科、グローバルビジネス科 2年生)



生徒の英語による自己紹介動画例



日本各地を英語で紹介するプレゼンテーション例

高等学校

生徒のスマートフォンを活用したパフォーマンステストの実施

- 全教室をWifi環境とし、タブレット端末を配布するのではなく、すでに生徒が持っているスマートフォンを有効活用する事業。
- 授業支援アプリ(ロイノート)を通じて、生徒に教科書本文の内容に関する Question を作るように宿題を出しておき、授業で提出された英文を一斉にプロジェクターで映し出してシェアする。また、パフォーマンステストとして家で音読を録音させ、提出させている。
- 教師がテストの解答の解説を録画し、QRコードを掲示して、生徒がその録画を見ながら自宅学習できるようにしている。

(成果と課題) 個別のデータ収集が容易になった一方、収集する情報が膨大になり、パフォーマンステスト等の目的で提出させるデータを効果的・効率的に扱うことが課題となっている。

(東京都教育委員会)

中学校

高等学校

パフォーマンステストの自己評価・ピア評価・ポートフォリオ評価への活用

場面:パフォーマンステスト データ:なし(スピーチの保存) 使用者:生徒

利点:①生徒の自己評価に活用 ②教師の評価(授業後)に活用

- 各自のスマートフォンで録音した音読やプレゼンテーション等の動画をオンラインで提出させ、ALTの協力を得ながら評価。保存したデータで、経年変化などを見る。
- 話したり書いたりしたことを共有・保管することで、生徒による自己評価・ピア評価や教師によるポートフォリオ含む評価に活用することが考えられる。
- パフォーマンステストなどの記録の保管により、校務支援システム・指導要録・調査書等と連動させることができる。

・休業期間中の学習課題として、紙媒体の学習プリントではなく、既存の動画コンテンツ(NHK for School)を活用。

・当該コンテンツを視聴させることに留まらないよう、Webアンケートフォーム(Google フォーム)を活用して、視聴後に取り組みさせる問題を出題。解答はコミュニケーションアプリ(LINE)からも送信することができるようオフィシャルアカウントを取得。

・生徒が解答を送信すると、予め準備しておいた正答及び解説が自動返信されるよう設定。



身の回りのことを説明してみよう

みなさん、こんにちは。今日の英語の課題は、ある動画をみてその後にある質問に答えましょう。この問題に回答できるのは一回だけです。他人を盗っての回答や明らかに不適切な回答は、やめましょう。みなさんの回答は、他の方に見られることはありません。安心して使ってください。また、ラインを持っている 3年生の友達にこのラインについて教えてあげてください。

それでは、始めてみましょう。

*必須

まずは、動画を視聴しましょう。Androidの方は、動画を視聴した後、シートに戻ると、解答が全て消えてしまうことがあります。回答は、必ず配られたプリントに答えを全て書いてからここに載せましょう。それでは、動画を視聴しましょう👉https://www.nhk.or.jp/kokoku/1627_055_01.mp4&n=chapter005&

👉 見ました。

【Webアンケートフォームを活用した課題】

Q2 彼は昼食に野菜カレーを食べました。How was it? (どのような味でしたか?) とジョアンに聞かれ何と答えましたか? ふさわしいものを1つ選んでください。

- It was mild.
- It was spicy.
- It was delicious.

Q3 家で子どもの話を聞いていましたが、ジョアンはどのような子で、もったと話していましたが? ふさわしいものを一つ選んでください。

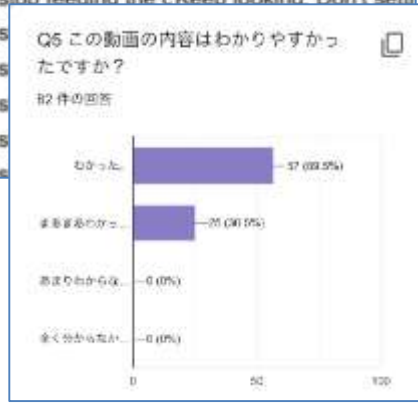
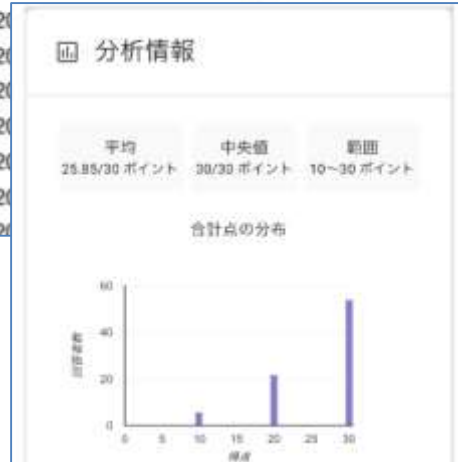
- I ate curry and ate every Friday night.
- I was an active boy.
- I was a very dreamy girl.

Q4 動画の中の表現を参考に、あなたの子どものころのことを英語で簡単に書いてみましょう。

タイムスタンプ	スコア	まずは、動画をQ1「ここで猫にえさをまQ2スティーブ・ジョブ
7/17/2020 17:17:59	30 / 30	見ました。 Please stop feeding the cKeep looking. Don't settl
7/17/2020 18:16:30	30 / 30	見ました。 Please stop feeding the cKeep looking. Don't settl
7/17/2020 20:19:46	30 / 30	見ました。 Please stop feeding the cKeep looking. Don't settl
7/17/2020 21:44:12	30 / 30	見ました。 Please stop feeding the cKeep looking. Don't settl
7/18/2020 9:21:40	30 / 30	見ました。 Please stop feeding the cKeep looking. Don't settl
7/18/2020 11:01:04	20 / 30	見ました。 Please stop feeding the cKeep looking. Don't settl

・生徒の回答は自動で一覧化。教師は生徒の回答状況(実際の解答や正答率等)を一目で確認することが可能。

・加えて、生徒一人一人の英文を一覧にして共有することも容易に行うことが可能。



クラスQ4交換留学生と仲良くなったなら、あなたがその人としていたいことを英語で伝えてみよう。できる人は、さらにもう1文以上加えて説明してみてくださいね。

- 1 1組 Recommending manga to you.Especially for manga I want to tell Kaguya like.
- 2 1組 I want to play tv game Because they know I like and it's fun.
- 3 1組 I want to take pictures together.To take pictures can make a memory
- 4 1組 If exchange student come to Kitano junior high school, I want exchange student show me around in his or her country.
I want to play sports. I think, I'm so fun for me that I play sports. For example, I want to baseball with exchange student It's because, I have played baseball with my friends for four years. But I have never played it with foreigner. And, I want to learn foreign country's baseball. So I want to play baseball with exchange student. And I want to play with exchange student

※原文ママ

- ・教師は生徒一人一人の解答を確認し、共通に見られた主な誤り等を取り上げ、学校再開後の授業で指導。
- ・本実践は、生徒、保護者ともに大変好評。学校再開後も、従来のプリントによる宿題が見直され、週末課題として現在も継続されている。

高等学校

動画共有サイトに自作の動画を掲載し、 家庭での予習・復習に活用

- 動画共有サイト(YouTube)に、教員・ALTが出演する動画を作成して限定公開した。
- 1本目は休校期間中に生徒(1~2年生)が自宅で視聴し、英語の授業までに見て予習することを目的に作成(7分15秒)。「クラスルーム・イングリッシュ」、「基本動詞と目的語」、「発音(lとr)」など、教科書等の題材を補完する内容とした。
- 2本目は夏休み期間中に生徒(1年生)が自宅で視聴し、基本的な会話表現、英単語のアクセントなど、夏休みの宿題の内容を補完するとともに、夏休み期間中のリスニング力を維持する動画とした(5分30秒)。夏休みの宿題冊子で扱われている「基本的な会話表現」、「疑問詞の使い方」と関連させるとともに、2学期以降で扱う「英語のアクセント」についても予習できるよう触れている。また、本動画を夏休み後の宿題テスト・リスニングテスト等に対応させることにより、動機付けを図っている。



(三重県立松阪工業高等学校)

高等学校

地元テレビ局と連携した
指導動画の制作

県教育委員会高校教育課の指導主事と総合教育センターの指導主事が出演し、テレビ局アナウンサーとやり取りしながら説明。各セクション8分程度。

(主な対象)

新たに高校の英語学習に取り組む高校1年生
(内容)

各科目の目標と学習内容・学習方法と英語の学習法全般についてのガイダンス

- ・「英語の学習全般」: 英語学習の目標と辞書の使い方、日々の英語学習について
- ・「コミュニケーション英語」: 英文の読み方と複数の技能を統合した学習法について
- ・「英語表現」: 英語による表現活動の紹介と文法を学習する意義、学習した文法の使い方について

放送終了後には休校期間中に生徒に取り組んでほしい課題例をHPに掲載。

(栃木県教育委員会)

中学校

タブレット端末を利用した
スピーチ、音読、聞き取り練習

○スピーチなどの練習

- ・原稿を読みタブレット端末に吹き込む。タブレット端末が読んだとおりの英文を表示するかどうかにより、自身の音声の適切さを確認する。

○教科書本文の読み練習

- ・デジタル教科書を生徒用タブレット端末にインストール。各自、読み練習。必要に応じて発音等を確認。

○単語学習や聞き取り練習

- ・「覚えられない単語が間隔を置いて繰り返し出題される」「聞き取りの弱点(弱音や音変化など)に特化した聞き取り練習問題が繰り返し出題される」などのアプリを生徒用タブレット端末にインストール。このようなアプリ等を活用し、学習の個別最適化を図る。

高等学校

海外の学校とつながり、即興でやり取りをする活動

お互いの国がどこかを知らない状態で2国間の教室をWeb会議システム(Skype)で繋ぎ、英語で質問しながら、お互いの国がどこかを当てる(Mystery Skype)。低学年対象の場合は、先に国を当てた方が勝ち、というゲーム要素も盛り込む場合がある。校種・地域問わず、広範囲の学校で実践可能。つながった人たちと、互いに関することを質問し合って情報交換や意見交換するなど、即興でのやり取りを行うことができる。姉妹校等との遠隔交流にも活用できる。

本事例では、Microsoft Educator Community (MEC)※を通じて相手先となる海外の学校に交流を申し込んだ。



(滋賀県立米原高等学校)



(宮崎県立日南振徳高等学校)



※Microsoft Educator Community (MEC)

米国Microsoft 本社が中心となって運営する教育部門Microsoft Educationが主催する全世界の教育者を対象としたソーシャルネット・ワーキング・サービス。ICTを活用した教育実践やグローバル教育実践の促進を目的としている。MEC内のセクション、Skype in the Classroomには、世界中でSkypeを活用している教育者の方々が登録されていて、クラス間での交流を申し込んだり、あるいはMicrosoftから認定を受けた各国の先生方が展開する、Skypeを利用した遠隔授業を受けたりすることができる。

高等学校

海外ゲスト・姉妹校や国内遠隔地にある学校との双方向型授業

○Web会議システム（Zoom）を用いて海外（台湾・アメリカ）とつながる授業

【事前】関連する短編映画を観た後、英語でオンラインレビューを読み、レビューを書く。

【当日】海外（台湾）から参加するゲストの講義を英語で聞き、質疑応答を行う。

【事後】アメリカの大学とオンラインで接続し、プレゼンテーションやディスカッションを行う。



○遠隔地の他校（北海道鷗川高等学校他）からのオンライン授業視察、研究協議等を実施



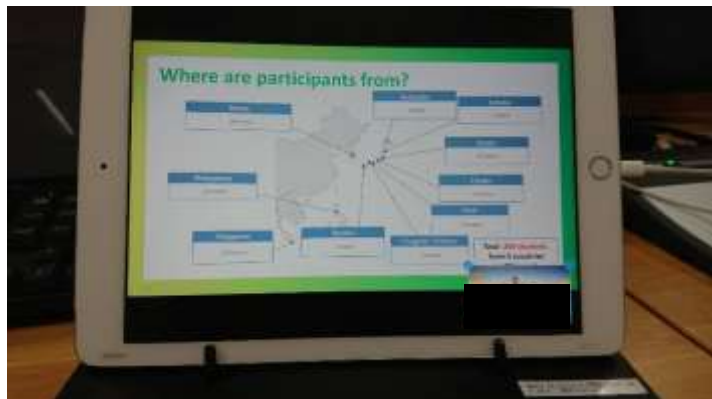
○アメリカ、ロシアの海外姉妹校等とオンラインで交流（アメリカとは英語、ロシアとはロシア語で交流）



高等学校

海外の高校生とプロジェクトチームを 結成する双方向型探求学習

- ・生徒の希望により、海外の高校生をWeb会議システムでつなげ、事前の英語での旅行企画立案とプレゼンテーションを行う公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本(※)のプログラムに参加。
- ・チーム単位で参加する日本の高校生が、韓国、シンガポール、フィリピンの高校生チームと3か国混成チームをつくり、外国人観光客向けの日本旅行のプランを企画提案する。最終的にオンラインでのプレゼンテーション大会が開催される。
- ・外国語の学習はもちろん、ICT機器を活用したプレゼンテーション資料の作成や、多様なメンバーを巻き込んだプロジェクトの運営についても学ぶことができる。



※公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本(JA)
本事例で紹介しているプログラムは「JA Travel and Tourism Business Program (TTBiz)」で、アクセンチュア株式会社の協賛により実施している。

<https://ja-japan.org/contests/TTBiz.html>



【交流・遠隔授業】 海外・遠隔地の児童生徒と交流を行う事例

小学校

中学校

小規模校をWeb会議システムでつなげる 「小小連携」・「小中連携」の遠隔協働学習

- ・小学校5年生同士が、行きたい国について英語で交流。 (富山県 南砺市立上平小学校・南砺市立井口小学校)



- ・小学校6年生と、中学校2年生が、Web会議システムでつながり、将来就きたい職業について英語で交流。 (富山県 南砺市立上平小学校・南砺市立平中学校)



小学校

Web会議システムやライブカメラで、自分の地域などを紹介し合う事例

- ・外国の子供や元ALTと、自分の住む地域や、学校のことを紹介し合う。（熊本県 五木村立五木東小学校 他）
- ・外国にあるライブカメラに外国語活動の授業中にアクセスし、実際に時差を感じ、世界の国々の生活に興味・関心をもつことで、自分たちの生活を紹介し合ったり、家庭科と連動してよりよい生活を考え発表したりする。

（山梨県 身延町立身延小学校 他）

中学校

TV会議システムを活用した、学校や先生紹介などの学校間交流

- ・少子化による学校規模の縮小を見通したとき、学校(学級)内で様々な相手とコミュニケーションを図る機会の提供が困難になる場合がある。
- ・海外の学校との交流同様、国内の学校(小規模校)同士によるTV会議システム等を使った交流も、相応の効果が期待できる。



（岐阜県 白川町立佐見中学校・白川町立黒川中学校）

高等学校

他校の教諭から、英語(ディベート)の補習授業を受ける事例

- ・「ICT活用(遠隔教育)による中山間小規模校での学力保障」を研究課題として、生徒に対する教育機会の確保、多様かつ高度な教育に触れる機会の提供をねらいとした調査研究事業の一環。
- ・県のディベート大会に向け、遠隔で高校をつなぎ、両校の生徒によるディベートの練習試合と、講師・ALTからの講評を含む、6回にわたる補習を行った。

高知県教育委員会 報告書

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/07/24/1418848_02.pdf

文部科学省 高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業(平成30年度～)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/sesaku/1310116.htm



<生徒の感想>

- ・映像も音声も思っていたよりスムーズでやりやすかった。
- ・何度も英語のディベートをすることができて楽しかった。またやりたい。
- ・相手の意見をふまえて自分たちの意見を英語で言うことの難しさが身にしてみた。
- ・別の高校の生徒と一緒に補習をしたので緊張したが、普段とは違う環境で学べたので良い刺激になった。
- ・本当のディベートの形で練習できたし、専門的な評価ももらったので実践的な力を身に付けることができた。
- ・違う高校の生徒と気軽にディベートの補習を行えるのは素晴らしいと思った。遠隔が楽しく思えた。

<教師の感想>

- ・機材が声を拾う精度が高く、第二言語話者の英語でも聴き取りやすい。
- ・音の遅れは気にならない程度であった。
- ・実際に英語で話かける相手がいるということが、一番意味があることのように感じた。教員が予想していた以上に生徒に力がついた。成果や課題を教員間で振り返り、次の授業に役立てたい。
- ・遠隔機材の最大限の活用が出来ていなかった。

高等学校

Web会議システムを使用したオンライン授業と登校を組み合わせた事例

- 導入(10分)、展開(35分)、まとめ(5分)の計50分の授業構成でオンライン授業を実施。数名の生徒は登校して受講した。
- 導入では、あいさつと数人の生徒に曜日を答えさせるなどの会話を実施。
- 展開では、①本時の英語表現のポイントの確認、②本文音読、③巻末問題をパソコンの画面に投影し、書き込みながら解説、解答例を提示、④生徒には、適宜答えさせるなど音声のやり取りをしながら問題を解かせた。
- まとめでは、生徒からの質問を受け付け回答するとともに、次回の予習と課題の指示を行った。



(佐賀県立伊万里実業高等学校)

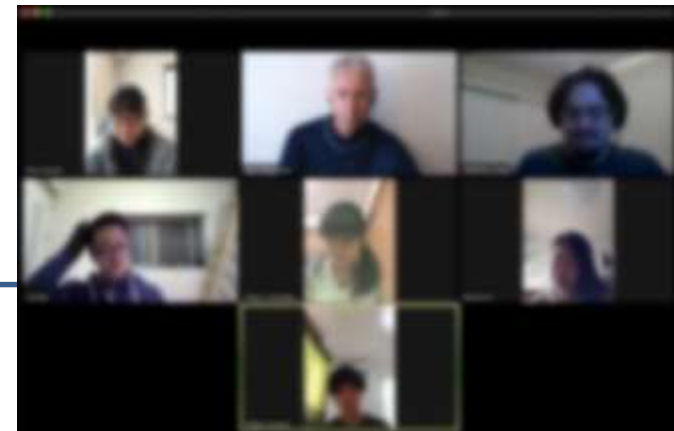
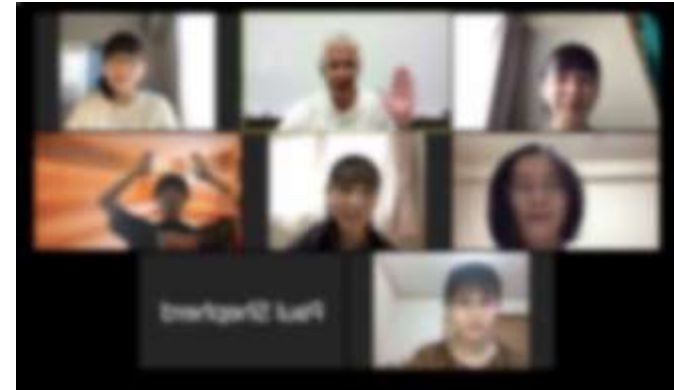
高等学校

オンラインのグループワークを含む双方向型指導

- ・夏期休業中、Web会議システム（Zoom）を使って、週に1回1時間から1時間半程度、以下の取組を実施した。
- ・オンラインでの簡単な英会話、あるトピックに関するALTを含めたディスカッション・発表を行うとともに、自学自習に活用できるオンライン学習教材や使用方法の紹介などをした。

（考察）

- ・ホストは参加者を複数の小グループに分けたり、また全体のグループに戻したりすることが可能。（通常授業で行うようなペアワークやグループディスカッションが可能）
- ・話をしながらパワーポイント、写真や文字（チャット）などを簡単に共有できる。
- ・声のタイムラグもなく、コミュニケーションは従来の電話のように可能。
- ・世界中どこからも参加ができるため、姉妹校など国内外の学校との交流も可能。



＜生徒の感想＞

- ・割と簡単にできた。家でもネイティブと話せるのは嬉しい。
- ・学校の授業以上に英語を話したり、聞いたりできた。
- ・先生方と英語で話すことが出来るオンラインレッスンは私のコミュニケーション力や英語力を伸ばしてくれると思った。
- ・オンラインで友達顔を見れて、励まされた。英語で話し合ったりすることがとても楽しく勉強になることがたくさんあった。
- ・オンラインで英語レッスンをすることで、英語に少しずつ慣れることができ、自分の英語力を伸ばしていけると思った。
- ・学校がなく家にずっといるので進路のことを一人で考えて不安になったが、仲間の顔を見ることで不安が消える。
- ・先生方に直接教えて頂いたり友達と一緒に考えたりすることで、英語を楽しみながら学習でき、充実したオンラインレッスンが出来るのでこれからも参加したい。

中学校

電子模造紙と遠隔授業を組み合わせたALTによる遠隔指導

- ・文部科学省「遠隔教育システム導入実証研究事業」として、電子模造紙と遠隔授業を組み合わせた指導を実施。
- ・普段の授業から、電子模造紙を使って生徒が英文を書き込み、ALTが後から添削やコメントを追加する活動を行っている。このようなリアルタイムでないコミュニケーションを継続的に行うことで、ALTとの関係性を保っている。

＜実践校による評価＞

- ・遠隔授業を繰り返し行うことで、モニター画面上のALTを前にしても、臆せず、自信をもって授業に取り組む姿が見られた。また、ALTがその場にいるような雰囲気で授業を行うことができた。
- ・電子模造紙を使ったALTとの交流を継続して行っていることで、日頃から遠隔交流に対する生徒のモチベーションは高く保たれ、ALTと直接つなぐ授業での意欲向上にもつながった。



中学校

中山間地校と市街地校のALTをWeb会議システムでつなぐ遠隔授業

- ・文部科学省「遠隔教育システム導入実証研究事業」として、ALTによる支援を受けることが少ない中山間地校に対し、市街地校のALTとつなぐ遠隔教育を導入。
- ・ALTが常駐していない中山間地校の生徒が、Web会議システム(FaceTime)を使ってALTからスピーチについてのアドバイスを受けることができ、スピーチの質を高めることができた。
- ・ALTとの交流のため、授業日の前に、電子模造紙(コラボノート)を活用した非対面型の交流もあわせて実践している。

<生徒の感想>

- ・1回目の発表でできなかったことが、2回目の発表でできるようになった。
- ・自分のスピーチに自信がでてきて、相手の表情・様子を見ながら話すことができるようになった。
- ・スピーチがきちんとできて、まるで外国人になった気分がした。

全国遠隔教育フォーラム(成果報告会)の開催(ビデオ配信)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1404422.htm

※「②事例報告」のビデオ配信のうち、「B1 ALTとつないだ遠隔学習」(0:28:06～)で当該取組が紹介されている。

静岡市教育委員会 説明資料「静岡市の取り組みについて」

https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_jogai02-100003178_006.pdf



「遠隔教育システム導入実証研究事業」第2回連絡協議会 事業計画説明資料



静岡市の取り組みについて



静岡市

たくましく しなやかな
子どもたちを育てるために

中学校

ALTを活用したWeb会議システムによる遠隔指導

・青森市教育研修センターのコンピュータ室に、市が契約する全ALTを集め、当該室と各学校をWeb会議システム（Zoom）で繋いだ遠隔指導を実施。

・具体的な実践事例は以下の3点。

① Small Talk等における英語教師とALTとのやり取りの提示

② 生徒とALTとの対話機会の提供。

③ パフォーマンステストによる学習評価の実施（パフォーマンステストを実施する会場に日本人英語教師と生徒。当該会場に遠隔でALTも加わり、生徒とALTがやり取り）。

・従来、同一校へは特定のALTが一人訪問していたが、本実践を行ったことにより、日頃接することのないALTとも対話する機会を提供することができた。加えて、一つの教室と複数のALTを繋ぎ、生徒がALTと英語を使って対話する機会（時間）の大幅な拡充も可能になった。

※青森市教育研修センターでは、英語教員の英語力向上を図るため、ALTの協力を得て、オンラインによる講座を年間を通じて継続的に開設している。



（青森市教育研修センター）

高等学校

多様なバックグラウンドをもつ 複数のALTを活用した遠隔授業

- ・文部科学省「遠隔教育システム導入実証研究事業」として、地域の複数のALTを同時双方向でつなく遠隔授業を実施。
- ・Web会議システム(リコーUnified Communication System)を使って、フィリピン、カナダ、日本の文化を熟知したALTの3名が、オンラインでやり取りした。生徒はALTの会話を聞いて、英語で質疑し、個人の考えをまとめて英語で意見を述べた。

(成果)

- (1) 異なるバックグラウンドをもつALTの会話を聞き、多様な英語の「発音」、「アクセント」、「声の抑揚」、「強調する言葉」、「言い方のスピード」に触れることができた。
- (2) ネイティブ同士の会話を聞き取る練習ができた。
- (3) ネイティブ同士の会話を聞き、多様な考え方(文化)に触れることができた。

全国遠隔教育フォーラム(成果報告会)の開催(ビデオ配信)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1404422.htm

※「②事例報告」のビデオ配信のうち、「B1 ALTとつないだ遠隔学習」(0:28:06～)で当該取組が紹介されている。

宮崎県教育委員会 説明資料「宮崎県立高鍋高等学校遠隔授業取組報告」

https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_jogai02-100003178_007.pdf



高等学校

Web会議システムを使用したALT・生徒同士のオンライン英会話

- 1年生はWeb会議システム(Zoom)を使って、オンライン英会話をALTとマンツーマンで実施。1回目は10分(トピックはフリー)で、2回目は5分(トピックは5つの中からsports, hobbyなど1つ選択)。
- 2年生は、教員のファシリテーションのもと、同じクラスの生徒同士で、英語での交流を行った。また、学校再開後は、オンラインでオーストラリアの姉妹校の生徒との交流を実施している。



(山口県立華陵高等学校)

高等学校

Web会議システムを使用したALT・JTEとのオンライン英会話

- 生徒(在宅)、ALT(在宅or学校)、JTE(在宅or学校)をWeb会議システム(Zoom)でつないで、一人平均40分程度、日常会話の練習を行った。
- 基本は生徒とALTがやり取りを行い、JTEはオブザーバー的な立場で、生徒が困っているときのみ声をかける形式。会話の内容については、特にテーマを設定しないフリートークを中心とした。
- 英会話にあまり慣れていない生徒も道案内等の簡単な会話表現から始めて、現在はかなりスムーズにやり取りができるようになる等、一定の成果があった。夏季休業中等も実施を計画。

(兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校)

高等学校

授業支援アプリを使用した 家庭学習の支援

ALTが在宅勤務中(および学校勤務中)、生徒が在宅の際に授業支援アプリ(Google Classroom)で以下の活動を行った。

(1) 情報コミュニケーション(1年生)

① ALTが発音指導の動画を生徒に配信。

② ALTが教科書についての問題を出す動画を生徒に配信。 生徒に視聴させる。

③ 生徒は自己紹介のビデオをALTに提出。

(2) Discussion & Debate(2年生)

① ディスカッションの課題プリントを配布。生徒は前もって意見をまとめておく。

テーマ例: Parents should not permit young children to play video games.

② クラスを8グループに分け、Web会議システム(Google Meet)を使い、生徒が30分のディスカッションを行う。 その際、ALTが司会進行をする。

(兵庫県立明石西高等学校)

高等学校

Webアンケートフォームを 活用した指導

○ 質問の集約と解説の掲載

・Web上のアンケートフォームから、生徒が課題に関する質問を送り、教員が確認する。質問者の名前は伏せた状態で、質問内容と解説を、Web上のプラットフォームの教科グループに掲載する。質問した生徒以外にも解説を読み、リアルタイムでの遠隔授業のように時間に縛られず、好きな時に読み返せるという利点がある。

○ 確認小テストの実施

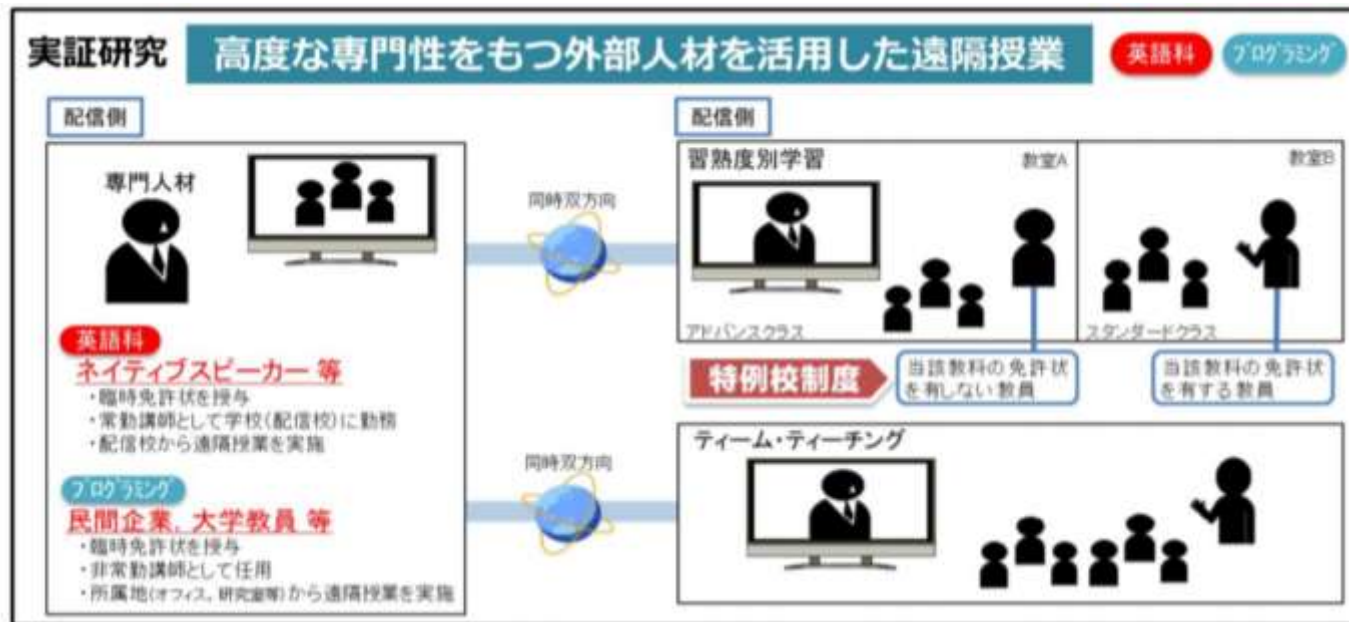
・Web上のアンケートフォームで小テストを行うことにより、教員が授業前後に各生徒の解答内容・解答状況などを確認することができる。スプレッドシート上で提出状況のデータを蓄積できるので、評価もしやすくなる。

中学校

高度な専門性をもつ人材が行う遠隔授業

(茨城県教育委員会)

- ・県教育委員会の施策として、高度な専門性をもつ外部人材を活用した遠隔授業の実証研究を、外国語(英語)とプログラミング教育に焦点を当てて実施。(文部科学省の遠隔教育特例校制度を活用。)



茨城県教育委員会 令和元年度「遠隔教育実証研究」実践報告書

<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/shochu/gakuryoku/enkaku-houkokusyo.pdf>

- ・外国語(英語)においては、高度な専門性をもつ外部人材(英語力の高い日本人及びALT経験者)として、5名に特別免許状を授与し、正規教員として採用。

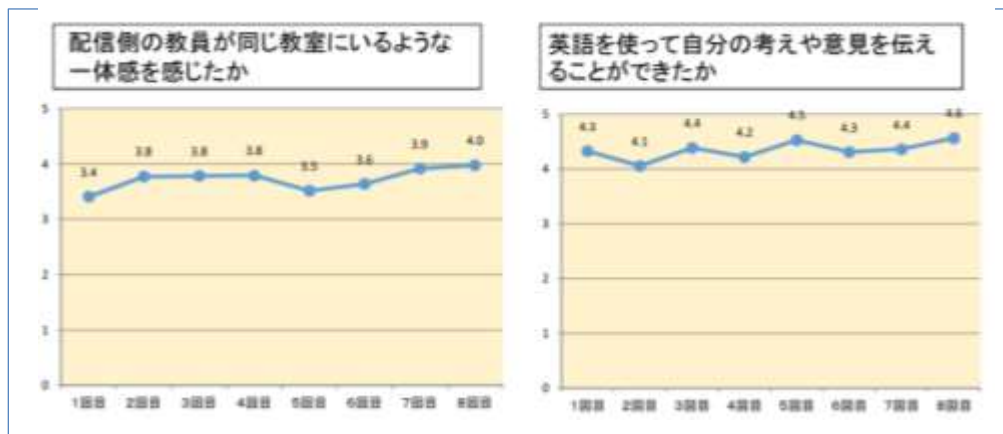
※昨年度(R元年度)は、当該人材を臨時的任用職員として採用。

1年間の試行的な取組を経て、本年度は正規教員として採用。

・当該教員と生徒との信頼関係を構築するために、対面による授業も実施するなどの配慮を行った上で、本事業を推進。

・積極的に質問する生徒の増加や、英語による発話量の増加などの成果あり。また、当該遠隔授業を受けた生徒の約半数がアセスメントテスト(英検IBA)の実施によりCEFR A1レベルに達した。※アドバンスト・クラスの生徒

※遠隔授業後に生徒に実施したアンケート結果の一部



➡ 対面による授業の実施、児童生徒と一緒に会食 など



・R2年度は、EdTechソフトウェア実証事業(経済産業省)も実施。遠隔事業を実施している学校の教員の業務削減を図るとともに、生徒の「英語力」を客観的に把握したり個別最適化された学習の推進を図ったりしてさらなる「英語力」の向上を目指す。

中学校

海外の英会話講師と生徒一人一人をつなぐ遠隔学習

- ・文部科学省「遠隔教育システム導入実証研究事業」として、タブレット端末(iPad)とヘッドセットを1人1台使用し、生徒と英会話講師が1対1で会話を行う指導を実施。
- ・ネイティブの英語に触れるとともに、マンツーマン形式にすることで、生徒一人当たりの発話量を増やし、ListeningとSpeakingの技能向上を図る。
- ・導入部分で本時のめあてを確認するとともに、生徒同士でペアを組み、マンツーマンレッスンで話す内容を練習した。接続後は、生徒一人一人が講師におすすめの場所を紹介し、質疑応答を行った。

＜実践校による評価＞

- ・マンツーマンレッスンが控えていることを意識してか、練習する時間から全員が集中して取り組むことができた。その集中力はマンツーマンレッスン終了まで持続していた。
- ・会話が苦手な生徒もいるが、マンツーマンレッスンを行うことで生徒が緊張感をもって授業にのぞむことができ、生徒のモチベーションアップにつながった。



(高知県 土佐町立土佐町中学校)

高等学校

海外の英会話講師とのマンツーマンオンライン英会話

- フィリピンの講師とマンツーマン(1対1)でディスカッションやディベートを行うオンライン指導(年に10回程度・1回40分)を、年間指導計画に組み込み、スピーキングの言語活動として活用
- 東京都が10校のパイロット校を対象に実施している事業。都立西では、生徒が一斉にフィリピン講師とスカイプで1対1で話すオンライン授業を実施しており、その授業に向けて通常授業の中で立論や反論を組み立てるなど、オンライン授業をディベートの実践として位置づけ、年間指導計画の中で有効に活用をしている。
- これまで4回実施した効果としては、英語力のある生徒に対しては非常に効果がある(更に英語力がのびる)。生徒が英語でのまとまりのあるやり取りに慣れるようになる。遠隔指導により、英語によるコミュニケーションの機会が増え、表現活動が充実する。

(東京都立西高等学校)

小学校

文部科学省作成 教師用デジタル教材 ①

We Can! (小学校高学年用) 対応 デジタル教材 (※)

教材の誌面をそのまま表示



動画ボタンをクリックすると、関連する映像が表示され、英語の音声流れる。



絵本の読み聞かせに対応



再生される英語の音声に合わせて、アンダーラインが表示される。

「絵辞書機能」で必要な英語を検索可能



英語の音声を流したり、絵カードを印刷したりすることが可能

※教師用端末にインストールして、電子黒板等に投影して授業で使用する。

【Let's Play】★

英語の音声を繰り返し聞いたり言ったりして、段階的に使えるようにする。

聞くこと、話すことの
言語活動

【Let's Chant】★

設定された表現について、英語のリズムやイントネーションに自然に慣れ親しむ。ほかに、【Let's Sing】もある。

聞くこと、話すことの
言語活動

Unit 5 My Summer Vacation

OUR SUMMER

Let's Play Pointing Game

Let's Chant Summer Vacation

mountain sea amusement park grandparents' house hiking swimming fishing shopping ice cream watermelon curry and rice shaved ice

夏休み明けの授業で、夏休みを題材に取り上げ、行ったところや食べたもの、楽しかったことなどを伝え合う中で、過去形の表現を扱う。

過去形を含む
基本的な表現を活用

<児童の発話例>
I went to the sea.
I saw starfish. It was fun

★短時間学習で扱うことも可能

小学校

文部科学省作成 教師用デジタル教材 ③

Let's Try!(小学校中学年用) 対応 デジタル教材

教材の誌面をそのまま表示



音声に対応



再生される英語の音声に合わせて、文字が色付きで表示される。

Let's Watch and Think

又いぎうを興て、せかいの子どものにじとあなたのにじをくらべてみよう。



同年代の外国の子供たちが虹を描く映像を視聴することで、捉え方の多様性、また違いを認め合う大切さを体験的に気づく学習につながる。

Unit4 I like blue.(Let's Try!1)より

動画ボタンをクリックすると、関連する映像が表示され、英語の音声流れる。



画面上に書き込んだり線を引いたりすることが可能



「絵辞書機能」で必要な英語を検索可能



英語の音声を流したり、絵カードを印刷したりすることが可能

小学校

文部科学省作成 教師用デジタル教材 ④

聞くこと、話すことの言語活動

【Let's Listen】

英語の音声を聞いて、必要な情報を聞き取ったり概要を捉えたりする。

聞くこと、話すことの言語活動・練習

【Let's Play】

英語の音声を繰り返し聞いたり言ったりして、慣れ親しむ。

聞くこと、話すことの言語活動

【Activity】

本単元で学習した表現などを使って、友達と自分の思いや考えを伝え合ってコミュニケーションする。

Unit 4

Let's Listen ① だれが何色をすきかを聞いて、線でむすぼう。

Let's Listen ② すききらいを聞いて、番号を表に書こう。

			1	2	3

Let's Listen ③ 二人の会話を聞いて、すきなものを○でかこもう。

Let's Watch and Think ② えいぞうを見て、すきなものに○を、きらいなものに△をつけて、たずねよう。

Let's Play 友だちのすきなものをよそうして、すきなら○きらいなら△を表に書いて、たずねよう。

すきなもの			
名前	よそう	好き	よそう
	よそう	好き	よそう
	よそう	好き	よそう

Activity ② すきなものを言って、じこしょうかいをしよう。

あなたのすきなもの

中学校

デジタル教科書の活用による指導の充実と効率化

場面:教科書本文の内容理解 データ:デジタル教科書

使用者:教師

利点:

- ①板書時間の短縮による生徒にとっての無駄な「待ち時間」の削減
- ②視覚情報の活用による理解の手助。タッチすることによる音声化

デジタル教科書使用で見込まれるその他の利点:クラス全体で共有・ユニバーサルデザインの効果・即時的なフィードバック



<参考>

動画URL (YouTube 文部科学省公式チャンネル MEXT Channel 外国語教育はこう変わる! 内に収録)

<https://www.youtube.com/watch?v=eR4fxbWQsts&list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f&index=25&t=0s>

(岐阜県 関ヶ原町立関ヶ原中学校)

中学校

教科書の内容を補足する情報の提示

場面:教科書内容に関する自分の考えをもたせる

データ:自作 / 使用者:教師

利点:教科書内容だけでは情報不足の場合、それを補足する情報を提供することにより生徒の思考を活性化

※教科書内容はフェアトレードについて。教科書内容だけではガーナの力カオ農家が強いられている不平等さに生徒が共感できないと考え、教科書内容を補足する資料を映像で提示。本資料は、実際は電子黒板に投影。

(岐阜県 関ヶ原町立関ヶ原中学校)

In 2013
1 bag (≒64kg)
≒212 Cedi
≒5,512 yen
→1kg ≒86 yen



Not only one person can get the money.

Of course, workers have their families...Is it enough?

中学校

言語活動の導入を円滑にするイメージ画像の提示

場面: Teacher Talk (言語活動の導入)

データ: 自作

使用者: 教師

- 利点: ①教師の話を理解する際の手助け
②活動で表現する内容のイメージ化



(大分県立大分豊府中学校)

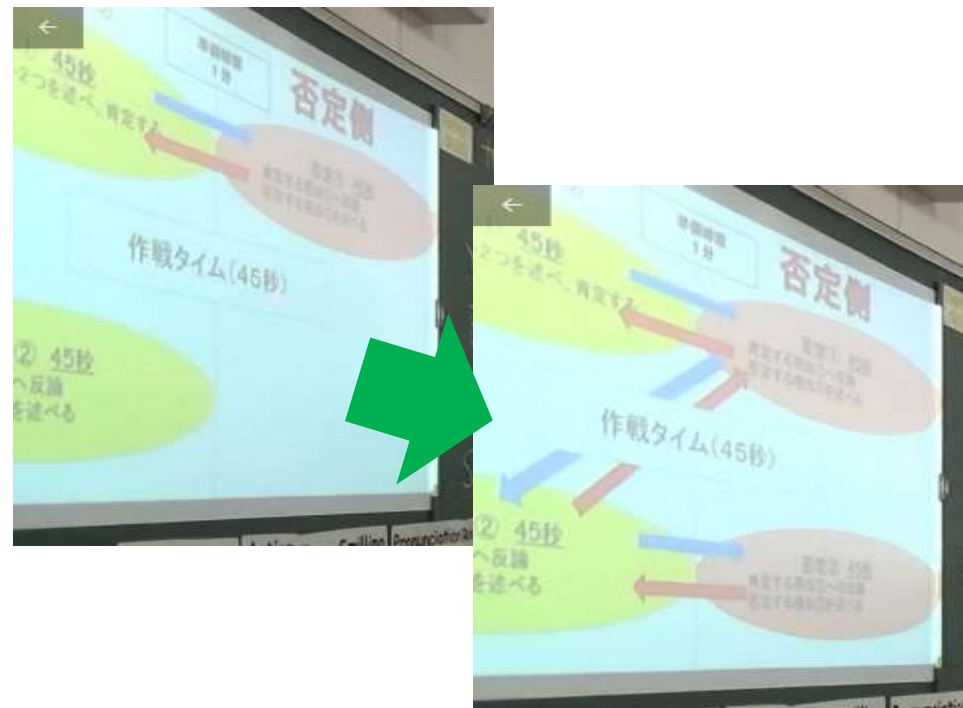
中学校

言語活動(ディベート)の取り組み方の提示

データ: 自作 / 使用者: 教師

利点: 説明に要する時間の短縮。

※ディベートの流れと時間配分をわかりやすく図にすることで、授業時間をより英語でのやり取りに向けることが可能となる。また、授業中も表示しておくことが可能。



(滋賀県 竜王町立竜王中学校)

中学校

高等学校

ビッグデータを活用した指導方法の開発

・生徒の発話や筆記を収集し、日本人学習者(児童生徒)が生じやすい誤りや、英語を習得する過程を把握するためのビッグデータとして活用。大学・専門機関等がデータ分析を行い、日本人学習者に合ったより効果的な指導方法を明らかにし、英語教師にフィードバックすることが考えられる。

※全国的に1人1台端末を使って、パフォーマンステスト等で児童生徒が自分の発話を録画するなどの取組が行われると予想される。録画したデータをビッグデータとして活用できるならば、大規模なデータ収集が可能となる。児童生徒が1人1台端末を持っているという利点、極めて多くの児童生徒の発話データがそれぞれの端末に保存されるであろう利点を生かし、指導方法の開発に生かすことが考えられる。

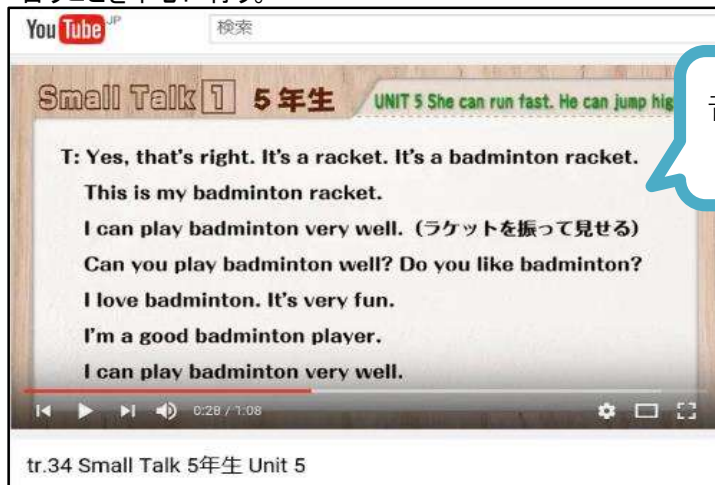
小学校

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」を踏まえた研修動画

○新学習指導要領の平成30年度からの移行措置・先行実施、令和2年度からの全面実施に向けて、各自治体等が主催する研修会や各学校の校内研修で活用し、英語や外国語の授業に対する小学校教員の不安を解消し、英語力や指導力の向上を図る。

Small Talk

Small Talk とは、高学年で設定されている活動である。2 時間に1 回程度、帯活動で、あるテーマの下、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。また、5 年生は指導者の話を聞くことを中心に、6 年生はペアで伝え合うことを中心に行う。



音声に合わせて
英語を表示

リズムに乗って、
楽しく英語の発
音を練習

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCezq1TvzGw6E-z0kmhKqKj>

発音トレーニング

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」の「発音トレーニング」に掲載されている発音のうち、特に日本人が苦手としているものや日本語と発音が違うものを取り上げている。小学校の先生方が楽しく英語の発音を練習できる研修教材である。



<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAbbrWCHR3kTqTYvOvw6lxF>

英語による授業中の指示や質問例
(例) Make pairs. / Change partners.

ALTとの英語による会話例
(例) Could you say that in English?

英語のイントネーション、強
勢、リズム、語の連結の練習

新教材説明会 (平成29年9月21日)
の様子も動画で配信中!

主な内容

- ・新教材We Can!の趣旨や活用法等の説明
- ・模擬授業による活動の紹介

https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbBzeX67bofX6HySolheD_N0

クラスルーム・
イングリッシュ

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDIUWRy-Q2GRrJ6e0kC1gV>

基本英会話

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDMo7KkufPloHCV-HrsHPYa>

スピーキング・
トレーニング

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCB54hi1s1fB6kjNEMOn4U6>

小学校

文部科学省作成教材 教師用指導書

Let's Try! 指導編

Let's Listen 1

音声を聞き、登場人物とその人の思い出を聞いて読む。

- 見出し、本活動において、I went to... I enjoyed... I saw... It was... の表現を初めて聞くことになる。したがって、導入として音声を聞かせる前に、指導者が自分自身の夏休みの思い出について、当該表現を使って話をするとよい。
- 音声を聞かせる際は、1回目は全体を通して、2回目は区切って聞かせるなど、児童の様子に応じて聞かせ方を工夫するとよい。
- 音声を聞かせたあとは、音声中出会った、I went to... や I enjoyed... などを読み返し聞かせて慣れることができるようにするため、Kosei went to... How about you, A son? など、児童とやり取りをするなどよい。

Let's Watch and Think 1

デジタル教材を閲覧し、登場人物が行ったこととそこでしたこととを動画に記入する。

- 本活動では、10文程度のまとまりのある英文を聞かせる。
- 英文を聞かせる前に、何を聞き取ればよいかを確認する。また、内容に関する事前情報など（例えば、アメリカとオーストラリアの小学生が話すことや、「日本の夏休みは7月下旬から8月下旬までだがアメリカとオーストラリアの夏休みはどうだろう」と投げかけ、予想をもたせるなど）を伝えておくとうまくいく。
- 単なる聞き取りの練習にならないようにするために、音声を聞かせる前に、「自分が聞くならどちらの夏休みがいいかな」と、自分の考えをもたせる発問をすることが考えられる。
- 音声を聞かせる際は、1回目は全体を通して、2回目は区切って聞かせるなど、児童の様子に応じて聞かせ方を工夫するとよい。

Let's Listen 2

音声を聞き、誰のことが語られているかを考え、内容に合う絵を選んで読む。

- 音声を聞かせる前に、誌面にある絵の英語での言い方(mountain, sea, swimming, watermelonなど)を、必要に応じて復習する。その際、その絵カードを示しながら、例えば「swimmingであれば、Do you like swimming? などその語を使って児童とやり取りを通して行うことが大切である。
- 英文を聞かせる前に、何を聞き取ればよいかを確認する。
- 内容を予測しながら聞くという聞き方を身に付けることも大切である。そのため、I went to the sea with my family. まで聞かせたらそこで音声を止め、「そこで何をしたらさうか」「何を食べたさうか」などと続きを予想させ、そのあと続きの音声を聞かせる指導も考えられる。
- 音声を聞かせる際は、1回目は全体を通して、2回目は区切って聞かせるなど、児童の様子に応じて工夫するとよい。
- 誌面には内容に関する絵が示されているため、それが手掛かりとなり内容を理解しやすくなる。一方で、手掛かりなく音声を聞いて必要なことを理解できる力を育てるために、初めは誌面を見せさせ、音声を聞かせることも考えられる。

スクリプト

Let's Listen 1

① Hi, I'm Kosei. I went to the mountains. I enjoyed camping. It was fun.
 ② Hi, I'm Hana. I went to the zoo. I saw a panda. It was cute.
 ③ Hi, my name is Aoi. I went to the sea. I enjoyed fishing. I ate *obento*. It was delicious.

Let's Watch and Think 1

マーク：Hello, everyone! I'm Mark. I'm in America. We have a long summer vacation from June to August. I went to the mountains this summer vacation. It was beautiful. I enjoyed camping. It was fun. I ate a hot dog. It was delicious.
 ジョン：Hello, everyone. I'm John. I'm in Australia. It's winter in Australia now. I went to the park this summer vacation. It was nice.

Let's Listen 2

さき：Hi, I'm Saki. I went to the sea with my family. I enjoyed swimming. I ate watermelon. It was fun.
 さとし：Hi, I'm Satoshi. I enjoyed shopping. It was exciting. I ate sandwiches. They were good.
 けんた：Hi, I'm Kentaro. I enjoyed shopping. It was delicious.

Sounds and Let's Listen

/p/ → park, pizza

・各活動のねらいや留意点などを掲載

・デジタル教材に収録されている英語のスクリプトにQRコードを掲載（授業準備時に英語を聞いて確かめることが可能）

I enjoyed playing soccer with my friends. It was exciting. I ate sandwiches. They were good.

Let's Listen 2

さき：Hi, I'm Saki. I went to the sea with my family. I enjoyed swimming. I ate watermelon. It was fun.
 さとし：Hi, I'm Satoshi. I went to the

小学校

中学校

高校

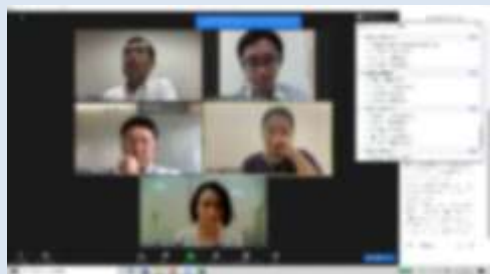
オンラインを活用した情報交換・研修の開催

文部科学省外国語教育担当者連絡協議会の開催

- 全国の都道府県・指定都市の指導主事等による情報交換会
- 事前に動画共有サイト(YouTube)で、文部科学省からの情報提供動画を配信し、当日はWeb会議システム(Zoom)を使ったグループディスカッションを実施



全体会



グループ協議

(参加者の声から)

- オンラインではあっても、顔が見える情報交換の機会が持ててよかった。
- 県の研修の在り方を考える機会になった。今度は自分がホストで研修をやりたい。
- Zoomだと参加者同士がフラットな感じになり、ベテランの人などに気圧されずに参加できるのがよかった。
- 行政説明がYouTubeで視聴できたので、停止したり繰り返したりして見ることができてよかった。
- 旅費がなくても参加できるのがよかった。

オンライン・オフライン研修実証事業

- 英語による指導力向上のため、オンライン(オンデマンド)を活用した指導方法の学習と、集合研修のメリットの双方を生かした研修プログラムを開発、実施。効果を検証し全国へ普及を図る。
- 令和元年度から開始した中・高等学校の教員を対象としたプログラムに加え、
 - 小学校外国語教育に対応したプログラムを実施
 - 集合研修もオンライン上で実施 (Web会議ツールを活用)



- 研修機会の地域差解消
- 「働き方改革」
- With/Afterコロナ下での指導力向上

【委託先】専門機関の公募(中高:ケンブリッジ大学出版、小:株式会社学研プラス)



YouTube 文部科学省公式チャンネル MEXT Channel 外国語教育はこう変わる！

- 新学習指導要領のポイントと授業改善のあり方等についての動画を公開
- 実際の授業ダイジェストや有識者との対談、視学官調査官による解説など多角的に目指すべき方向性を紹介
- 1作品15分程度の構成で、忙しい先生方も手軽に視聴が可能
- 令和2年9月1日時点で、25本の動画を掲載、今後も随時、追加して公開予定

○現在公開中の動画(例)



○最新シリーズ「なるほど！小学校外国語」



言語活動や読むこと・書くこと、学習評価など、先生方の疑問に対談や動画でわかりやすく解説



シリーズ①



シリーズ②



シリーズ③



資料編

【コンテンツ・授業運営】 教師への支援

YouTube 文部科学省公式チャンネル MEXT Channel 外国語教育はこう変わる！シリーズ 掲載授業事例



小学校			
1	大田区立洗足池小学校 6年生	小学校の外国語教育はこう変わる！ ～前編（授業）後編（対談）～	小学校の外国語教育はこう変わる！をテーマに大田区立洗足池小学校での授業の様子とともに授業の振り返り、そして後編では、洗足池小学校での学校を上げてのこれまでの取組を含めて大田区立洗足池小学校 射水博子 主任教諭と文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 直山木綿子 教科調査官の対談をお送りいたします。
2	仙台市立富沢小学校 5年生	小学校の外国語教育はこう変わる！② Small Talk の進め方	英語の意味を推測し、実際に使って考えや気持ちをやり取りする言語活動を通して、表現を身に付けていく授業例です。 知らない単語や表現に出会ったときに、何とか英語でコミュニケーションを成立させるためには、文脈やその他の手掛かりをもとに「推測」する力と、実際に使ってみようとする態度が必要とされます。英語に初めて触れる段階である小学校では、こうした資質・能力を身に付けるために、「十分に理解、練習してから活動する」という学習の流れではなく、「（多少分からないことがあっても）推測して、まずやってみてから課題に気付き、練習等で解決する。」という学習の流れが効果的です。
3	山梨県昭和町立押原小学校 4年生	小学校の外国語教育はこう変わる！③ 言語活動を行う動機付けのはかり方	本時は、4時間のうちの第3時間目です。この映像では、指導者の松田先生による子供達の道案内の「動機付けのはかり方」や「お気に入りの場所を伝え合う理由」の設定を見てみましょう。
4	山梨県昭和町立押原小学校 6年生	小学校の外国語教育はこう変わる！④ ～言語活動の進め方及び、読むこと・書くことの指導のあり方～	本時は、8時間のうちの第3時間目です。この映像では、指導者の三枝先生が、子供達に本時のねらいである「将来就きたい職業に理由を付けて伝え合うこと」にどう向き合っているかを、見てみましょう。また、どのように子供達に本時で使う表現を読んだり書いたりさせているかも、見てみましょう。
5	宮崎市立赤江小学校 4年生	小学校の外国語教育はこう変わる！⑤ ～題材の導入の仕方～	本時は、4時間のうちの第1時間目です。この映像では、指導者の岩切先生が、どのように子供達に教室名に出会わせているか、その工夫を見てみましょう。また、小学校教員とALTの役割についても見てみましょう。
6	宮崎市立赤江小学校 4年生	小学校の外国語教育はこう変わる！⑥～やり取りの進め方～	本時は、4時間のうちの第1時間目です。この映像では、指導者の岩切先生がどのように子供達に道案内の仕方慣れ親しませ自分たちのお気に入りの場所へ案内させるかを見てみましょう。
7	宮崎市立赤江小学校 6年生	小学校の外国語教育はこう変わる！⑦～Small Talkの進め方～	本活動は、7時間のうちの第1時目の最初に取り組んだSmall Talkの様子です。この映像では、指導者の岩切先生が、どのようにSmall Talkの題材を提示し、展開するかを見てみましょう。
8	宮崎市立赤江小学校 6年生	小学校の外国語教育はこう変わる！⑧～児童の意欲を高めるゴール設定の在り方～	子供達が意欲的に単元終末の言語活動に向けて取り組むためには、言語活動を行う目的や場面、状況の明確な設定とそれを子供と共有することが欠かせません。本活動は、7時間のうちの第1時間目に取り組んだものです。指導者の岩切先生が、子供が単元終末の言語活動に向けて意欲を高めるよう、その目的や場面、状況を設定している工夫を見てみましょう。また、小学校教員とALTの役割についても見てみましょう。

YouTube 文部科学省公式チャンネル MEXT Channel

外国語教育はこう変わる！シリーズ 掲載授業事例



中学校			
1	下妻市立 下妻中学校	2年生	<p>中学校の外国語教育はこう変わる！～前編（授業）～後編（対談）～</p> <p>「中学校の外国語教育はこう変わる！」をテーマに前編では下妻市立下妻中学校での授業の様子、後編では、授業を振り返り下妻中学校でのこれまでの取組を含めて下妻市立下妻中学校木村涼子教諭と文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 山田誠志 教科調査官の対談をお送りいたします。</p>
2	横浜市立 横浜吉田中学校	1年生	<p>中学校の外国語教育はこう変わる！② 「言語活動を通して、言語材料を学ぶ」 松本 誠 先生</p> <p>コミュニケーションを通して、言語材料（過去形）について教える授業例です。新中学校学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」とされています。新しく学ぶ言語材料の導入もひと工夫が必要です。本動画では、言語活動に取り組ませる前に、使わせたい表現（過去形）を教える方法の例を紹介しします。</p>
3	関ヶ原町立 関ヶ原中学校	3年生	<p>中学校の外国語教育はこう変わる！③～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～ 小竹 真史 先生</p> <p>社会的な話題について書かれた文章を読んで概要を捉えさせるとともに、捉えたことに関する自分の考えや理由を互いに伝え合ったり、伝え合った内容を踏まえて再構築した自分の考えなどを書いたりさせる、第3学年1月の指導例です。小学校で外国語活動の開始時期が早期化され、高学年では教科化されることを踏まえ、中学校卒業段階で到達させる目標のレベルは、これまでとおりにいうわけにはいきません。この点から、社会的な話題という難易度の高い文章を読ませたり、当該文章の内容について互いの考えや理由を即興で伝え合わせたりしている本事例は、中学校で求めたいレベル感を把握する上でも好事例といえます。加えて、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「書くこと」の領域を統合させた言語活動に取り組ませていることや、授業を終始英語で行っていることも、本事例の優れた点です。</p>
4	中野区立 中野東中学校	2年生	<p>中学校の外国語教育はこう変わる！④～日常的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～ 井上 智絵 先生</p> <p>日常的な話題について書かれた文章を読んで概要を捉えさせるとともに、当該文章で扱っている「日本の伝統的な文化」に関わって、いくつかの話題（花見とこたつ）と同じ話題に関する自分の考えや理由を話したり書いたりさせる、第2学年1月の指導例です。新学習指導要領の改訂の要点として、語彙や表現などを異なる場面や話題の中で繰り返し活用させることを明記しています。本事例においても、話題を変えて繰り返し表現する言語活動に取り組ませている点において優れた事例といえます。加えて、日本語に訳さずに文章の内容を理解させる指導、絶えず生徒とやり取りしながら授業を行う指導なども参考になるでしょう。</p>
5	岐阜市立 東長良中学校	3年生	<p>中学校の外国語教育はこう変わる！⑤「統合的な言語活動の指導の工夫」 森 優哉 先生</p> <p>この授業では、「英語の授業は…するべきか？」というテーマに関する言語活動を取り上げます。学習の目標は「立場をはっきりさせて、相手が納得できる主張をしよう」です。5領域のうち、「話すこと [やり取り]」「読むこと」「書くこと」の3つを統合的に扱い、学習目標に到達できるように工夫がなされています。次のプロセスで構成され、展開されています。①賛成・反対に分かれて話す。（「話すこと [やり取り]」の言語活動）→②英語教師とALTからの指導（「読むこと」の言語活動を含む指導）→③再度、賛成・反対に分かれて話す。（「話すこと [やり取り]」の言語活動）→④伝え合ったことをもとに自分自身の考えを書く。（「書くこと」の言語活動）</p>

YouTube 文部科学省公式チャンネル MEXT Channel

外国語教育はこう変わる！シリーズ 掲載授業事例



高等学校			
1	千葉県立 松戸国際高等学校 ／茨城県立 取手第一高等学校	高等学校の外国語教育は こう変わる！（授業編）	新高等学校学習指導要領の「英語コミュニケーション」に対応した授業展開例（千葉県立松戸国際高等学校 安斎祐介教諭）と、「論理・表現」に対応した授業展開例（茨城県立取手第一高等学校 花沢典行教諭）について、授業の様子と両教諭への文部科学省下山田教科調査官からのインタビューを収録しています。 「英語コミュニケーション」に対応した授業展開例では、新学習指導要領のポイントでもある「統合的な言語活動」と生徒が活用する「支援」について触れます。「論理・表現」に対応した授業展開例では、意味のある文脈の中で、新しい文法事項を実際に使いながら、気付きを深めて理解し使えるようになっていく指導となっています。
2	千葉県立 成田国際高等学校	「読むこと」に関する授業の流れ（読む前－読んでいる間－読んだ後） 高等学校の外国語教育はこう変わる！② 脱・文法訳読！「考えて読む」授業 下村 明 先生	「読むこと」について、読む前・読んでいる間・読んだ後における効果的な指導例 新学習指導要領の「読むこと」は、単に英語を日本語に置き換えるのではなく、「何を読み取ることが必要か」を考えながら、目的等に応じて必要な情報などを読み取る力を養います。 本授業は、「読むこと」と「話すこと [やり取り]」の統合的な言語活動で展開されます。 読む内容に関して、生徒自身と関連付けて考え生徒同士で話させたり、質問を通して「何を読み取らなければならないのか」を考えさせて読ませたり、読んだ後に生徒から引き出ししながら内容を確認したりといった、活動の流れが円滑であり、教師の適切な配慮が見られます。 授業の随所に生徒同士が話して考えや意見などを理由とともに話して伝え合うやり取りが豊富であることも特長です。
3	茨城県立 竹園高等学校	「話すこと [やり取り]」の言語活動を取り入れた「読むこと」の指導 (Post-reading activity) 植木 明美 先生	新しい高等学校学習指導要領（平成30年告示）における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「発表」及び「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動に対応した授業動画です。 この授業では、教科書本文で読んだ内容をふまえて情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに即興で話して伝え合う活動や、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動を行っています。その際、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を段階的に示すなどして、原稿を読むだけに終始するやり取りにならないように指導しているほか、教師が生徒に質問をしながら発話を引き出したり、自分の言いたいことを更に効果的に伝えるための方法に生徒自身が気付くように、生徒の発話を違う表現を使って言い換えたりするなど、生徒がやり取りの内容を少しずつ充実させることができるような工夫がなされています。
4	茨城県立 竹園高等学校	高等学校「書くこと」(Peer Reading)の指導 アンソニー・パクストン 先生	新しい高等学校学習指導要領（平成30年告示）の「書くこと」の指導に対応した授業動画です。 この授業では、生徒の書いたエッセイのIntroduction Paragraph（序論）を教師が取り上げ、語彙の使い方や構成、内容の発展のさせ方において良かった点などを生徒同士で分析させ、「書くこと」の力や意欲の向上につながる適切で効果的なフィードバックをしています。その際、文法事項等の訂正に偏ることなく、適切な語彙が選択されているか、伝えたい内容が整理されているか、伝えたい内容が読み手に伝わるためには、どのような書き方をすれば効果的かなどを全体で共有しています。このような活動を通して、生徒自身が説得力のある論理の構成の在り方や効果的な論理の展開の仕方などについて判断し、学んだ知識や経験を、実際に自分が書く文章に生かすことができるように工夫しています。 また、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図っています。

文部科学省ホームページ 教育の情報化の推進 調査研究事業のICT活用授業事例

以下は、日常的に遠隔教育(オンライン双方向型の活動)を行っている授業等の事例です。
外国語に限らず、実際に各地域の学校で取られたことが掲載されていますので、ご参考としてご紹介します。

◆学校ICT環境整備促進実証研究事業(遠隔教育システム導入実証研究事業) (平成30年度、令和元年度)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1404422.htm

ー全国遠隔教育フォーラム(成果報告会)の開催(ビデオ配信)

「②事例報告」のビデオ配信のうち、「B1 ALTとつないだ遠隔学習」(0:28:06～)が外国語教育に関する事例。

<https://www.youtube.com/watch?v=yukSjc38rxQ&feature=youtu.be>

(静岡県説明資料)静岡市の取り組みについて

https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_jogai02-100003178_006.pdf

(宮崎県説明資料)宮崎県立高鍋高等学校遠隔授業取組報告

https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_jogai02-100003178_007.pdf

ー遠隔教育システム活用ガイドブック 第1版

静岡市の事例「賛成意見・反対意見を言おう」(pp.23-24)、土佐町の事例「外国語」(pp.25-26)が外国語教育に関する事例。

https://www.mext.go.jp/content/1404424_1_1.pdf

ー遠隔教育システム活用ガイドブック 第2版

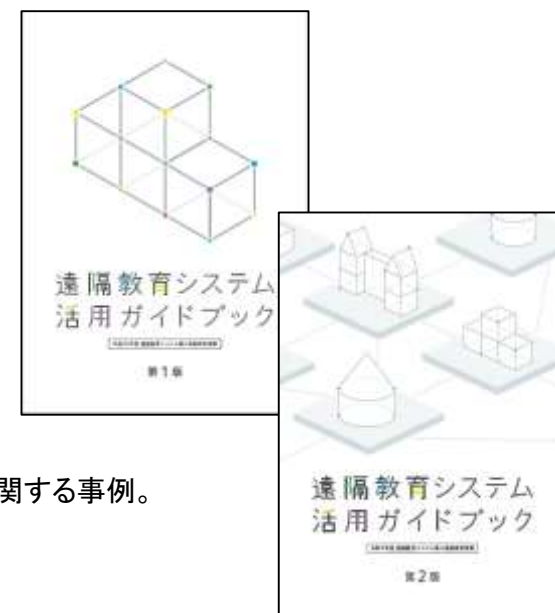
静岡市の事例「Introduction of family members」(pp.38-39)、宮崎県の事例「ロジカルコミュニケーション I (学校設定科目) / 英語討論」(pp.40-41)が外国語教育に関する事例。

https://www.mext.go.jp/content/20200804-mxt_jogai02-100003178_024.pdf

◆多様な学習を支援する高等学校の推進事業 (平成27年度～)

◆高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業 (平成30年度～)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/sesaku/1310116.htm



おわりに

本事例集の作成に当たり、貴重な事例及び資料等を御提供いただいた学校・教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

文部科学省ホームページ
外国語教育情報

https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/index.htm



文部科学省 外国語教育

検索